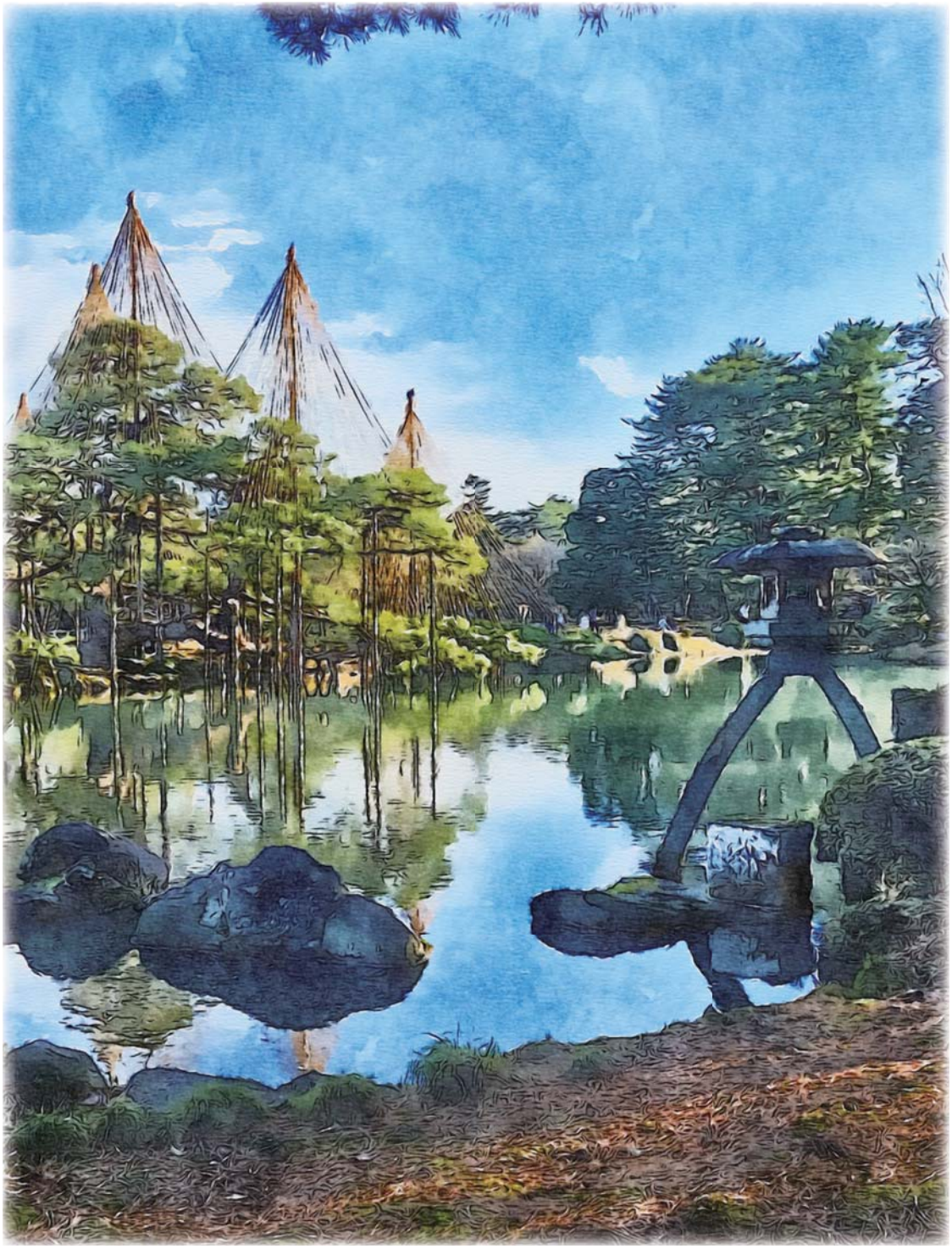
編集
発行
金沢市広岡町イ25－10（石川県薬事センター内）
公益社団法人 石川県薬剤師会　会長 中森　慶滋

2023.1
No.88

いしかわ県薬レポート



（兼六園 雪吊り・ことじ灯籠）

目　　次

◆新年のご挨拶　石川県薬剤師会　会　　長　中森　慶滋　…… 1
◆新年ご挨拶　日本薬剤師会　会　　長　山本　信夫　…… 5
◆令和５年年頭所感　参議院議員・薬剤師　本田　顕子　…… 6
◆新年にあたって　参議院議員・薬剤師　神谷　政幸　…… 7
◆受賞おめでとうございます　…… 8
◆学会報告
●医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム（金沢大会）を終えて
北陸大学薬学部　教　　授　石川　和宏　…… 9
●令和４年度第62回北陸信越薬剤師大会・第55回北陸信越薬剤師学術大会に参加して
石川県薬剤師会　青年部会　澤野　輝夫　…… 12
●第55回日本薬剤師会学術大会in宮城　石川県薬剤師会　副 会 長　綿谷　敏彦　…… 13
●第55回日本薬剤師会学術大会にWEB参加して　石川県薬剤師会　理　　事　塩谷　明美　…… 15
●FAPA2022（アジア薬剤師連合学術大会）inクアラルンプール参加報告
石川県薬剤師会　副 会 長　橋本　昌子　…… 16
◆「令和４年度石川県中高生薬剤師セミナー2022」の開催　～メイン会場とサテライト会場をつないで～
●「～薬剤師の日～石川県中高生薬剤師セミナー2022」を開催して
石川県薬剤師会　理　　事　北嶋　浩成　…… 18
●公立宇出津総合病院での石川県中高生薬剤師セミナー2022の開催報告
公立宇出津総合病院（現：金沢大学附属病院　薬剤部）　板井　進悟　…… 20
●石川県中高生薬剤師セミナー・サテライト薬局を終えて　はくい薬局　平場啓一郎　…… 22
●加賀地区のサテライト会場として参加して　箔山堂作見薬局　加藤　仁美　…… 24
◆薬剤師国家試験にチャレンジ　北陸大学薬学部　実践実学系（執筆順）
准 教 授　岡田　守弘
教　　授　大本まさのり　…… 25
◆支部だより
●令和４年度石川県防災総合訓練参加レポート
小松能美支部　災害支援担当薬剤師　永井　博人　…… 28
●白山市福祉健康まつり「こども薬剤師体験コーナー」に参加して
白山ののいち支部　横宮町あおば薬局　小此内麻紀　…… 29
◆委員会だより
●「かかりつけ薬剤師へのステップ１，２，３（全５回シリーズ）」の開催
かかりつけ薬剤師・薬局機能促進事業委員会　塩谷　明美　…… 31
●診療情報共有ネットワーク参加について　ICT（IDリンク）委員会　松田　泰美　…… 32
●日本薬剤師研修センター（G01）の電子化について
薬剤師生涯学習事業委員会　藤原　秀範　…… 33
◆「伊　　達」　なかもりけいじ　…… 36
◆麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動石川大会に参加して
石川県薬物乱用防止指導員協議会　会　　長　村田世里子　…… 38
◆「特殊詐欺注意！」薬局で啓発チラシを　石川県薬剤師会　副 会 長　藤原　秀範　…… 39
◆CAP（子どもへの暴力防止）プログラムを通じた地域、学校での人権啓発活動
CAPのと　能登北部支部長　穴水あおば薬局　原　　将充　…… 41
◆SDGsで目指す薬薬連携
NPO法人 薬薬連携SDGs KANAZAWA 代表理事　宇夛　裕基　…… 43
◆「青春のリグレット」 綿矢りさ著　やまだのかかし　…… 45
◆いつまでも現役の薬剤師　株式会社日環商事　中出　　勉　…… 46
◆「学びのサポーターとつくる夏休み体験」への参加を通して　てまり新田薬局　赤坂　聡之　…… 48
◆第43回金沢がん哲学外来オンライン講演会の紹介
金沢大学附属病院　緩和ケアセンター長　山田　圭輔　…… 49
◆石川県薬剤師会「親睦ボウリング大会」を開催して
石川県薬剤師会　副 会 長　綿谷　敏彦　…… 53
◆「愛はゴミ箱の中に」“Who Is Banksy”　石川県薬剤師会　会　　長　中森　慶滋　…… 54
◆連盟だより
●「本田あきこ　オレンジ日記」 ～学術大会からの「伝える」～
参議院議員・薬剤師　本田　顕子　…… 58
●「政幸だより」 ～初めての国会質問～　参議院議員・薬剤師　神谷　政幸　…… 59
●薬剤師の明るい未来のため　挑戦を皆様と共に
石川県薬剤師連盟　副幹事長　宇夛　裕基　…… 60
●令和４年度日本薬剤師連盟北陸信越ブロック協議会の開催
石川県薬剤師連盟　事務局長　谷内　一大　…… 61

新年のご挨拶

公益社団法人 石川県薬剤師会
会 長 中 森 慶 滋

新年あけましておめでとうございます。

ロシアがウクライナに侵攻してやがて一年が経とうとしている。台湾人であるものの日本語がネイティブでないにもかかわらず「彼岸花が咲く島」で第165回芥川賞を受賞した李琴峰氏は次のように書いている。彼女の文章からはリバタリアニズムとしての崇高な精神が読み取れる。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

私はウクライナを侵略したロシアを非難する。その行為はウクライナの人々の自由を大きく害しているからだ。もし中国が台湾や日本に侵攻したら、私は中国を非難する。その行為は私の自由、そして私の人生に登場した多くの素敵な人たちの自由を大きく害するからだ。しかし、それを防ぐために自分自身の自由を国家権力に献上せよと声がかかったら、私はそれを拒否する。

私は瓦礫の下敷きになり、砲弾で撃たれたりして死にたくない。大空と大地に抱かれて安らかに死んでいきたい。それは本来、人間というものに等しく与えられた権利のはずだ

「透明な膜を隔てながら」李琴峰著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

コロナが世界に蔓延する中このような戦争の危機が訪れようとは想像もしていなかったことが現実に起きたわけだが、不安定な世の中、今後はどのようになっていくのだろうか。アメリカの政治学者イアン・ブレマーは「危機の地政学」という本の中で現在我々は３つの危機に直面しているという。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

一つはパンデミックだ。世界は今も、新型コロナウイルスの経済的、社会的影響を払拭できずにいるばかりか、今後も危険なウイルスに苦しめられるのは間違いない。２つ目は気候変動で、何十億人もの人々の暮らしを一変させ、地球上の生命の持続性を脅かすだろう。３つ目は破壊的な新技術だ。これが我々人類の未来に最も暗い影を落とし、我々の生き方、考え方、他人とのかかわり方を変え、それが思わぬ悪影響を人類におよぼし、人類の未来を決めるだろう。

「危機の地政学」イアン・ブレマー著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

１つ目や２つ目については想像の範囲内だが、３つ目のテクノロジーはこれまで我々はユートピアをもたらすと錯覚させられていた。しかし多くのSF小説で語られているようにそれが現実となると世の中は混乱しディストピア（暗黒世界）をもたらす。そこのところを理解しなくてはいけない。今後AIが我々の社会に浸透していくだろう、その結果組み込まれたAIのアルゴリズムの判断が人によって、人種によって、性別によっては不公平な社会を生み出すかもしれない。

個人情報は巨大企業に握られフィルターバブル※1の中、収益をどんどん上げていくだろう。クリアビューAIというハイテク企業がユーザーの撮った写真をサーバーにアップロードすると、写真に写っている人物を特定できるというアプリを開発した。このようなアプリは個人のプライバシーを失ってしまうだろう。これから管理社会が世の中を支配し、中国が西側のような社会になるのではなく、西側諸国が監視資本主義となり中国的国家になっていくのだ。

医療の分野では裕福な人だけが病気になる前にセンサーを用い健康を管理できるようになるかもしれない。またDNAを解析して、その人個人に特化した高額医療を受けることが現実となるだろう。これは医療の進化は平等に人に訪れないことを意味する。

テクノロジーの自動化とAIによる支配は個人と国家との関係を作り替える技術革命の一つだ。機械学習によるテクノロジーが人の価値観も大きく変え、汎用人工知能（AGI）が登場すると、AGIははるかに広範囲の仕事をすることができ多くの職を奪っていく。

イアン・ブレマーは次のように書いている。

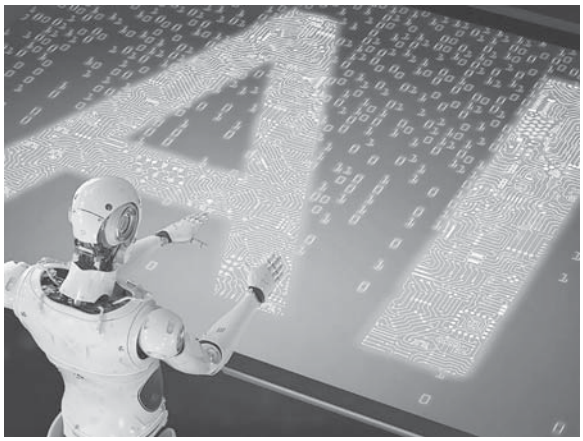
＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

AIを導入すると、まずは人間の肉体労働が機械に奪われるだろうが、長期的にはおそらく、大卒資格を必要とするホワイトカラーの専門職が最も機械に奪われていくと結論できる研究は多い。2019年にアメリカのブルッキングス研究所が発表した研究によれば「大学院や専門職学位を持っている労働者は、高卒の労働者に比べ４倍近くもAIに仕事を奪われるかもしれない脅威にさらされていることになる」という。研究所の研究員や医学研究者、医療従事者、エンジニア、（略） は、AIに仕事を奪われるかもしれないので、そろそろ気をつけたほうがよい。

「危機の地政学」イアン・ブレマー著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

調剤業務が外部委託され薬が配送されるとなると薬剤師は何をすればいいのだろうか、遠隔服薬指導をすればいいだって？それはAIがもっとも得意とする領域なのだ。薬剤師のレゾンデートル（存在価値）は調剤業務にあるのだから。調剤を手放すと薬剤師は一瞬で消滅してしまう。



一方「人新世の「資本論」」斎藤幸平著

ではマルクスの「資本論」を紹介している。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

「資本論」は物質代謝の「攪乱」や「亀裂」という形で、資本主義が持続可能な生産のための条件を掘り崩すことに警鐘を鳴らしている。資本主義は人間と自然の物質代謝を持続可能な形で管理することを困難にし、社会がさらに発展していくためには足枷になるというのである。（略） むしろ、無制限な資本の利潤追求を実現するための生産力や技術の発展が「掠奪する技術における進歩」にすぎないことをはっきりと批判しているのである。

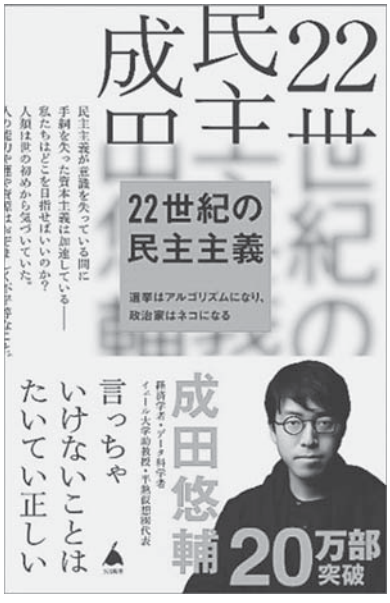
「人新世の「資本論」」斎藤幸平著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

またイエール大学助教授の成田悠輔氏は民主主義は劣化していると次のように書いている。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

インターネットやSNSの浸透に伴って民主主義の「劣化」が起きた。閉鎖的で近視眼的になった民主国家では資本投入や輸出入などの未来と他者に開かれた経済の主電源が弱ったという構造だ。（略）



だが、「民主主義の劣化」とは一体何なのか？民主国家における表現や報道の自由が落ち込んだという懸念が語られることがある。そして、ここ20-30年の情報・コミュニケーション技術革命で「民主主義」の中で起きる情報流通や議論。コミュニケーションが、大きく変わったと言われる。ざっくりと言えば、政治がウェブとSNSを通じて人々の声により早く、強く反応しやすくなった。そのことで、人々を扇動し、分断するような傾向が強まったという懸念である。

「22世紀の民主主義」成田悠輔著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

民主主義が劣化し暗黒世界が迫ってきている中、私たちはどう世の中を乗り切っていけばいいのだろうか。実はマルクスがそのヒントを与えてくれている。生きていくのに必要とされるさまざまな生産・消費活動の領域をマルクスは「必然の国」と呼び生存のために絶対的に必要ではないものの、人間らしい活動を行うために求められる芸術、文化、スポーツ、友情や愛情などの領域を「自由の国」と呼んだ。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

それに対して。マルクスの掲げる「自由の国」は、まさに、そのような物質的欲求から自由になるところで始まるのである。集団的で、文化的な活動領域にこそ、人間的自由の本質があるとマルクスは考えていたのだ。

だから、「自由の国」を拡張するためには、無限の成長だけを追い求め、人々を長時間労働と際限のない消費に駆り立てるシステムを解体しなくてはならない。たとえ、総量としては、これまでよりも少なくしか生産されなくても、全体としては幸福

で、公正で、持続可能な社会に向けての「自己抑制」を、自発的に行うべきなのである。闇雲に生産力を上げるのではなく、自制によって「必然の国」を縮小していくことが、「自由の国」の拡大につながるのだ。

「人新世の「資本論」」斎藤幸平著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

脳科学者の茂木健一郎氏は混乱していく世の中で〈生きがい〉を持とうと言っている。勝者だけが〈生きがい〉を持っているわけではなく「人生」という現場では勝者も敗者も対等に〈生きがい〉を持つことができるとし、勝者と敗者の間には境目はないという。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

〈生きがい〉は小林氏の言うところの「ユニバーサル・モーター」※2だ。何が起ころうとも〈生きがい〉を持っている限り、あなたは、人生の困難な時期をなんとか切り抜いていくことができる。あなたは、必ず安全な避難所に戻ってくることができる。そこからまた人生の冒険をやり直すことができる。

「生きがい」　茂木健一郎

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

「自由の国」で〈生きがい〉を見つける。これを薬剤師は業務の中でどのように実現していけばいいのだろうか。石川県薬剤師会は考えていきたい。

※1「フィルターバブル」とは、アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々のユーザーにとっては望むと望まざるとにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル（泡）」の中に居心地のいい情報環境のことを指す。

※2「ユニバーサル・モーター」ヨットにはユニバーサル・モーターというのを必ず積んでいる。このモーターではスピードは出ないものの絶対に壊れることはない。航行中に帆柱が折れるなどしたとき、確実に港に帰り着くためのモーターである。

新年ご挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会
会長 山本信夫

新年明けましておめでとうございます。石川県薬剤師会会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より本会の進める諸事業に格別のご理解とご支援を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。また昨年、風水害等により被災された方々には、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く、平常な生活を取り戻されますことを願うものであります。

さて、2020年に我が国で初めて新型コロナウイルス感染症が確認されて以来、早くも３年が経過しました。急速な感染拡大により、社会・経済活動が停滞を余儀なくされる中で、地域の薬剤師・薬局は医療提供体制を医薬品提供の立場から支え続け、ワクチン接種の迅速化や、自宅で療養する患者等に対する治療薬の提供などに大きな力を発揮されました。さらに現在も、季節性インフルエンザとの同時流行に備え、検査キットや解熱鎮痛薬等の販売・相談対応をはじめ、医薬品提供体制の維持にご尽力されておられることに、心より厚く御礼申し上げますとともに、その心意気に敬意を表するものであります。

一方、電子処方箋やオンライン資格確認等あらゆる分野で進むDXに、薬局・薬剤師も例外なく対応せねばならず、薬剤師資格証（HPKIカード）は、その対応に不可欠な薬剤師資格を証明する手段となります。ご負担をお掛けいたしますが、速やかな資格証取得のための申請をお願いいたします。電子処方箋の運用を巡っては、厚生労働省において検討が重ねられ、モデル事業等で把握された課題を踏まえ、本年１月よりスタートします。その定着にはなお時間を要しますが、患者は勿論、医療現場に混乱を生じさせない「誰もが理解しやすい」仕組みとして活用できるよう、会員の皆様には都道府県薬剤師会・地域薬剤師会を通じて分かりやすくお知らせして参ります。

また、本年４月に予定されている中間年薬価改定の与える影響は、薬局経営や医薬品の供給体制など広範囲であることから、改定対象は「大幅な乖離のある品目」に限定し、薬局の経営状況等も勘案し実施の可否をも検討するよう要望しています。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響や物価高騰等による想定を超える薬局の経営状況の減衰を踏まえ、必要な財政支援を要望しているところです。

さらに、薬剤師・薬局に対する規制改革の圧力は、日増しにその強さを増しています。調剤業務の委受託、員数規制の緩和、専門家不在時のOTC薬販売など、薬剤師否定論にも似た無理難題を看過することなく、医療安全の確保や責任体制の明確化の視点から、今後とも薬剤師の必要性を主張して参ります。

今後も、山積する課題に果敢に取り組み、地域への医薬品提供を担う薬剤師・薬局がその責任・役割を果たせる環境づくりに向けて、覚悟と矜持を持って会務を進める所存です。

結びにあたり、石川県薬剤師会会員の皆様方にとって実り多い一年となりますよう祈念し、新年の挨拶といたします。

令和５年年頭所感

参議院議員・薬剤師　本　田　顕　子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新たな年を迎えられたことと存じます。本年も変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は少しずつ人の往来や人が集う機会が増えてきたように感じますが、依然としてコロナ禍は続いており、マスクをつけての年越しは今年で３回目となりました。その間、会員の皆様におかれましては、処方箋調剤をはじめとする薬剤関連業務に加えて、新型コロナワクチン接種へのご協力、抗原検査キットの販売・配布及びPCR検査の実施支援等の新型コロナ対策などを通じて、地域にお住まいの皆様の健康づくりや公衆衛生の向上に貢献されておりますことに敬意と感謝を申し上げます。

今年こそはマスクを外して会話をしたいと思っておられるのは先生方も同様と存じますが、季節性インフルエンザの同時流行も懸念されるため、同時検査キットの供給により検査機会を確保することとなりました。限られた医療資源を有効活用し、この冬を乗り越え春を迎えられるようにと思います。

また、処方箋の電子化に伴う体制整備等のご負担も多いと思われますが、重複投薬や併用禁忌のチェック等がより確実かつ効率的に行われ、薬剤の安全使用につながるよう、導入に向けてのご理解とご協力をお願いいたします。

新春はおかげさまで静かに迎えることができました。

昨年８月の第二次岸田改造内閣におきまして厚生労働大臣政務官兼内閣府大臣政務官を拝命し、医療・子育て等の厚生行政と新型コロナワクチン接種推進を担当させていただくこととなりました。通常国会では来年度予算案をはじめ国民生活に直結する議案が本格論戦されます。大臣政務官として加藤勝信厚生労働大臣を補佐し、薬剤師の先生方の明日の環境整備につなげていけるよう努力してまいります。

結びに、会員の皆様にとりまして本年が実りある輝かしい一年となりますことを祈念申し上げ、新年にあたっての挨拶といたします。

新年にあたって

参議院議員・薬剤師　神　谷　政　幸

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、お健やかに輝かしい新たな年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

皆様のご支援により、昨年７月に国会に送り出していただいてから半年が経過しました。８月３日の初登院、その後の党本部における各種会合への出席、10月３日に招集された臨時国会における初めての国会質問等、毎日が初めての経験の連続であり、薬剤師の声を国政の場に伝えるという役割を果たすべく精一杯の努力を続けております。

思い起こすと、２年を超える私の全国訪問活動は新型コロナウイルス感染症に翻弄されたものであったと考えています。組織内候補と決定していただいた令和２年３月は緊急事態宣言が出されており、訪問活動は宣言が解除された５月25日以降となってしまいました。令和３年２月から始まった全国の支部訪問も同年１月に二度目の緊急事態宣言が発令されている中での活動でした。まさに、ウィズコロナ活動であったと、今となっては懐かしく思い出しています。２年間の活動、そして選挙活動におきましては会員の皆様に大変お世話になりました。改めまして御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も終息の兆しが見えない中で新年を迎えることになり、会員の皆様もウィズコロナ生活を強いられておられるのではないでしょうか。本年は卯年であり、ウサギには跳ねる特徴があるため、景気が上向きに回復するといわれており、縁起のよい年だとのことです。また、ウサギは穏やかで温厚な性格であることから「家内安全」、「飛躍」、「向上」を象徴するものという捉え方もあるそうです。

本年が会員の皆様にとって素晴らしい一年となりますことを祈念申し上げ、新年に当たりましての挨拶とさせていただきます。

受賞おめでとうございます

◇ **叙　勲**

瑞宝双光章

牛　島　　武　先生

◇ **令和４年度薬事功労者**

○ **厚生労働大臣表彰（薬事功労）**

石　浦　祐喜子　先生

○ **県知事表彰（薬事功労）**

柏　原　宏　暢　先生

崔　　吉　道　先生

◇ **令和４年度学校保健に関する表彰**

○ **文部科学大臣表彰（学校保健功労）**

平　場　芙美代　先生

○ **石川県学校保健功労者表彰**

（石川県教育委員会）

乙　田　雅　章　先生

○ **石川県学校保健会功労者表彰**

（石川県学校保健会）

杉　原　　忠　先生

綿　谷　敏　彦　先生

竹　端　　裕　先生

◇ **令和４年度薬物乱用防止功労者**

○ **厚生労働省医薬・生活衛生局長感謝状**

木　戸　千　加　先生

○ **石川県知事感謝状**

加　藤　敦　子　先生

◇ **日本薬剤師会　有功賞**

河　合　史　子　先生

◇ **北陸信越薬剤師会賞**

連　代　美和子　先生

西　尾　浩　次　先生

先生方のご栄誉をたたえ、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

学会報告

医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム(金沢大会)を終えて

北陸大学薬学部　教授　石　川　和　宏

公益社団法人 日本薬学会 医療薬科学部会の主催で30回目の節目となる「医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム（金沢大会)」が去る７月23日(土)・24日(日)の両日に渡ってWeb開催されました。金沢では、第21回大会を当時金沢大学附属病院教授・薬剤部長であられました宮本謙一先生がご担当されて以来９年ぶりでした。私が本大会の実行委員長を拝命し、テーマは、金沢の豊かな自然と歴史に宿る医療薬学をイメージして、「枝葉が伸び、花が咲き続ける医療を支える根幹たる医療薬学の新たな挑戦」とさせていただきました。

本大会の開催にあたり、開催地が歴史豊かな観光地として名高い金沢であったことから開催形式としてハイブリッドを含めた現地開催を求める声が多くありましたが、医療者が多く参集することを鑑み、新型コロナウイルス感染症の拡大を最大限に考慮して４月末日には現地開催を断念しWeb形式での開催を決定しました。その甲斐あってか、大会両日は、新型コロナウイスル感染症の第７波が猛威を振る中での開催と相成りましたが、Webの強みを活かすことで計画通りに開催することができました。一時はどうなることかと心配する場面も多々ありましたが、関係各位の多大なご支援ご尽力のお陰をもちまして無事に終了することができました。

資料１：本大会のホームページ

資料２：本大会のポスター

資料３：オンラインイベント会場（TKPガーデンシティPREMIUM金沢駅西口 ＪＲ金沢駅西第三NKビル３Ｆ）

本大会は、特別講演２件、教育講演１件、シンポジウム13件、ポスター発表173件、及び共催セミナー４件という魅力あふれる内容から構成されました。

特別講演１では厚生労働省の太田美紀様より「これからの薬剤師に求められること」と題して今後の薬剤師業務に関する貴重なご講演を賜りました。特別講演２は、名古屋市立大学大学院薬学研究科教授の鈴木匡先生より「新しい薬学臨床教育のあり方を考える －薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂を控えて－」と題して今後の薬学臨床教育の向かうべき方向性について大変興味深いご講演を賜りました。教育講演では、京都大学医学部附属病院教授・薬剤部長の寺田智祐先生より「ゲノム情報と薬物療法」と題して最新の難解な話題にもかかわらず誠にわかりやすいご講演を賜りました。また、13件のシンポジウムについては、近年薬剤師に求められている専門職能等に関わるがん治療、臨床推論、薬剤師による臨床研究、多機関・多職種連携・病診薬連携・薬事連携、緩和医療、PK/PD、高齢者医療、妊婦授乳婦における薬物療法、感染制御における薬剤師の役割、及び認知症おける薬剤師の役割、同部会が主催するもう一つの大会である「次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム」における受賞講演、及び日本学術会議医療系薬学分科会からの報告等について大変熱気ある講演と活発な質疑応答が交わされ、対面さながらのWeb様式という表現がその場の雰囲気を一番的確に表現しているのではないかという印象を強くもったのはおそらく私だけではないと思っています。ポスター発表の173件については、予想以上の数字で、薬学生の積極的な発表も多くあった豊富な内容でのオンデマンドポ

スター発表が開催でき、参加者にとっても大変有意義なものとであったに相違ないと確信しております。本大会が担う役割を生で感じ取れたことにはこの上ない喜びを感じた次第です。併せて事前審査により選ばれた20件のポスターについては、大会当日ライブ形式にて発表を行い、優秀ポスター賞５件の選定を行うことで、ポスター発表をより一層内容も含めて盛り上げることにつながったのではないかと信じております。該当された先生方の今後の活躍が大いに期待されるところでもあります。

さらに、本会の要となるオーガナイザーやシンポジストの先生で体調が優れない中での参加や療養中のホテルからの参加などといった第７波の直撃下にもかかわらず、大変なご尽力をもって支えていただいたおかげで全ての内容を完遂することができました。また、一般参加の先生方や学生の皆さんの志の高い姿勢が随所に見られ、第７波の猛威を払拭してしまうような各セッションでの熱気ある討論が活発に交わされていたのには感謝を通り越して感動の思いで胸が大変熱くなってしまいました。大変な状況下での学会の開催とはなりましたがしっかりと支えられた屋台骨は、いうまでもなく人と人との強い絆であったことは相違なく、このような力に支えられた本学会の実行委員長を務めさせていただいたことに、心から深く感謝の意を表します。

本大会参加者への各種単位申請に関する配慮として、日本病院薬剤師会 専門・認定薬剤師単位、及び日本薬剤師研修センター 研修受講単位（シール）を聴講したシンポジウムや共催セミナーに応じて申請いただき、受講証あるいはシールを送付させていただきました。今回、日本薬剤師研修センターがこの４月よりシールを廃止して電子申請を開始したことにより、本大会においても対応に着手して参りましたが、時間不足の関係から導入には至らず、代替策として、石川県薬剤師研修センターのシールをご利用させていただきました。石川県薬剤師研修センターの藤原センター長には誠に寛大な御配慮を賜り、ここに心より厚く御礼申し上げます。

最後に、本大会の一般及び学生会員と非会員を合わせた参加者は、総勢646名にのぼりました。これもひとえに、医療薬科学部会の先生方や本大会の組織委員や実行委員の先生方の多大なご協力とご尽力の賜物と心より深く感謝申し上げます。あらためて組織委員としてご協力を賜りました石川県薬剤師会の中森会長、崔副会長、森戸常務理事、政氏理事、及び金沢市薬剤師会の村田会長をはじめ、実行委員としてご協力を賜りました石川県薬剤師会の橋本副会長、今庄常務理事、北嶋理事、野村理事、及び坂野理事にはこの場を借りて心より厚く御礼申し上げます。

次回は、2023年７月22日(土)・23日(日)に山形大学小白川キャンパスにて開催される予定となっています。対面形式にて盛大な会として開催されることを心より祈念して、本報告を終えさせていただきます。

令和４年度第62回北陸信越薬剤師大会・第55回北陸信越薬剤師学術大会に参加して

石川県薬剤師会　青年部会　澤　野　輝　夫

令和４年９月22日と23日に第62回北陸信越薬剤師大会及び第55回北陸信越薬剤師学術大会が富山県薬剤師会の主催で開催されました。

コロナ禍の影響で一昨年は中止、昨年はWEBのみでの開催となってしまいましたが、今年は現地とWEBのハイブリッド形式で開催され、私は現地で参加させていただきました。

今回のメインテーマは「変化に対応　新たな薬剤師連携へ　HUB ～The hearts update behavior～」でした。これは、薬局が地域連携においてHUB機能の役割を果たすことで、そこから得た共感から行動変容に繋がることを願うものだそうです。

１日目は第62回北陸信越薬剤師大会でした。富山県薬会長の西尾先生の挨拶から始まり、新潟、石川、福井、長野の各県薬会長の紹介と一言挨拶がありました。また、北陸信越薬剤師会賞受賞者の紹介があり、石川県から西尾浩次先生と連代美和子先生が受賞されました。おめでとうございます。

次に基調講演があり、「最近の医薬行政と今後の薬剤師に期待すること」という演題で、厚生労働省薬事企画官の太田美紀氏より地域連携薬局を含め国として薬剤師に求めること期待することについてご講演いただきました。引き続き、「変化に対応、新たな薬剤師連携へ　令和３年度から稼働した地域連携薬局」というテーマでシンポジウムがあり、石川県の丸一先生を含め各県１人ずつのシンポジストによる地域連携薬局の認定を受けている薬局の薬剤師の取り組み等の話を聞き、それを基に座長の富山大学附属病院薬剤部長の質問に対しディスカッションを行っていました。連携は「無理、できない」ではなく「やってみよう」と思うことが近道であるということと、地域連携薬局の認定取得はゴールではなく、そこからさらに展開していくことが求められるということが印象的でした。

その次に、「スポーツを、通じて豊かで健やかな暮らしを実現　～薬学とスポーツの連携を探る～」という演題で㈱ゴールドウインテック・ラボの中村研二氏より特別

講演がありました。

２日目は第55回北陸信越薬剤師学術大会でした。

口頭発表とポスター発表があり、北陸信越五県の先生方の活躍を聞くことで新たな知識や今ある知識の整理をすることができました。

２日間を通して、メインテーマの通りこれからの薬局・薬剤師がどのように変わっていかなければならないか学べる場、どのようにすれば変わっていけるかを考えさせる場だったと思います。

第55回日本薬剤師会学術大会 in 宮城

石川県薬剤師会　副会長　綿　谷　敏　彦

2022年10月９日(日)、10日(月・祝)の両日、宮城県仙台市で開催されました。宮城県では2011年に開催予定だったのですが、その年は東日本大震災により中止となりました。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2020年札幌、2021年福岡の２年間はWebでの参加でしたが、今年は2019年山口以来３年ぶりの現地参加でした。

初日は早々に会場入りし、午前中のプログラム（式典・表彰式・特別記念講演）を聴いてきました。

午後から石巻へ向かいました。石巻市南浜地区には津波に襲われる直前まで大勢の人が生活していました。私のカーナビは自動的に更新がされないので、当時の道がそのまま表示されています。現在、住宅はなく一帯すべてが「石巻南浜津波復興祈念公園」として整備され、その真ん中に「みやぎ東日本大震災津波伝承館」が建てられて

いました。東日本大震災の記憶と教訓を永く後世に伝え継ぎ、同じ悲しみと混乱を繰り返さないという想いも込められているようです。＜がんばろう！石巻＞の看板も三代目が後を継いでおりました。

女川町地域医療センター（旧女川町立病院）にも足を運びました。写真は順に、

2011年３月11日、2012年７月、2016年７月、2022年10月に撮影したものです。（2011年３月11日分は地元新聞記事より転用）

１年後に訪れたときはほとんど手付かずの状態でしたが、５年後は海に面する女川駅周辺のかさ上げ工事が終わり、商業地としての整備が進んでいました。現在では多くの方が町を訪れています。しかしながら、住まいは高台に限定されているため、真の復興はずっと先だと感じました。

２日目は分科会15「災害時の薬剤師の役割」に参加しました。10人の先生による講演でしたが、予想通り時間が足りなくなって（笑）、最後のディスカッションをできなかったのが残念でした。冒頭の生出泉太郎先生（当時の宮城県薬剤師会会長）が３月11日の夜空を撮影したスライドを示された際、思わず涙してしまいました。あまりにもステキな夜空だったのです。真っ暗闇の澄みきった空気の中の満天の星々…。その星の下で多くの人々が助けを求め苦しんでいたということが頭をよぎってしまって、ステキさの中に過酷さを感じてしまいました。

コロナ禍になってから初めて現地へ行くことができました。機会あるごとにまた現地を訪れ、現状を伝えていけたらと思います。

第55回日本薬剤師会学術大会にWEB参加して

石川県薬剤師会　理事　塩　谷　明　美

令和４年10月９日から10月10日の２日間、宮城県にて第55回日本薬剤師会学術大会が開催されました。メインテーマは結（ゆい）～地域と共に未来へ～です。結の文字は宮城県が生んだスーパースター羽生結弦さんが書いたそうです。宮城県薬剤師会の会員の先生が羽生選手の家族とお知り合いだったそうで、実現した逸話がありました。

今回、私は仙台に行けなかったので、全てWEB参加でした。便利な時代ではありますが、現地の状況が分からないのが残念でした。というのも参加した人から現地の状況を伺いましたところ、今回の学術大会はコロナ禍で大々的に開催できなかった過去２年の鬱憤を晴らすかのような参加人数だったそうです。開会式、分科会、どこに行っても席が満席だったとのことでした。

さて、９日９時30分から開会式が始まりました。宮城県薬剤師会加茂副会長の開会宣言から始まり、日本薬剤師会　山本会長、宮城県薬剤師会　山田会長の挨拶、来賓挨拶等つづきました。山田宮城県薬剤師会会長が東日本大地震発災から11年を越えての学術大会開催に対する熱い思いを語り、感慨深い挨拶でした。

開会式、特別記念講演を皮切りにハードな２日間が始まりました。どの分科会や口頭発表も抄録から興味深いものでした。が、WEBで参加する場合は途中で分科会等を抜けることはできません。というのも、今回PECSを用いた研修単位を申請する必要があったためです。研修単位を取得するためには学術大会のHPからそれぞれの会へ入室し、終了したら退室するという作業が必要でした。それで、事前に送られてきた抄録集をじっくりと読み、どの講演や分科会、口頭発表に参加しようかとスケジュールを立てて、視聴しました。９日11時から特別記念講演、そして、12時30分からのランチョンセミナー参加、14時からの分科会参加、16時30分から口頭発表を連続視聴しました。翌日10日は朝８時40分から山本日薬会長の講演から始まり、９時30分から特別講演、10時40分から分科会に参加しました。さすがに連続視聴は疲れましたが、インスパイアされる内容ばかりで、大変勉強になった次第です。昨今話題の連携、服薬フォローなどが多かったと思います。個人的に特に興味を持ったのは、分科会７の「医療的ケア児の実態とこれからの取組みについて」です。石川県でも頑張っている薬局があると思いますが、石川県の取組をもっと知りたいと思いました。もう一つは10日の分科会17「薬物療法における薬剤師・薬局の継続的なフォローアップの在り方と医療機関との連携の在り方について」です。内閣府食品安全委員会事務局　紀平先生の講演が自分の業務への思いに突き刺さりました。地域に自分達が行っていることが地域のためになっていることが大切であると理解しました。選ばれるために何をすべきかを求めるのではなく、地域の健康増進のために実施していることが選ばれる薬局薬剤師の真理であると心に刻みました。

密度の濃い２日間を終了し、疲れましたが、すっきりした思いで10日月曜の午後

を過ごしました。やはり、学会参加はいいなあと改めて感じました。今年は仙台に現地参加せず、牛タンを食べられなかったので、来年の和歌山には現地参加したいと思います。

FAPA2022(アジア薬剤師連合学術大会)inクアラルンプール参加報告

石川県薬剤師会　副会長　橋　本　昌　子

2022年11月８日～12日に、アジア薬剤師連合学術大会がマレーシアのクアラルンプールで２年ぶりに開催されました。

大会テーマは、『Pharmacists Building a Better Healthcare System』薬剤師は、より良いヘルスシステムを創ろう！！という内容でした。まさに、健康サポートや地域包括ケアシステムとつながる内容です。

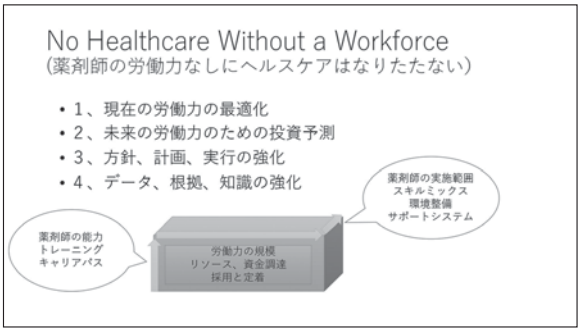
マレーシアは、赤道近くで熱帯雨林気候に属し、面積は日本よりひとまわり小さい約33万㎢。その60％がジャングルです。公用語はマレー語。ほかに中国語、タミル語、英語も通用します。マレー系、中国系、インド系、多数の民族で構成される多民族国家で、多様な文化が、ひとつの国に凝縮されているような国です。

私はポスター発表をしましたが、今年は、口頭もポスターもウエブ上での発表のみで、実際にポスターの前で示説することはありませんでしたが、FAPAより写真の感謝状が贈られてきました。

シンポジウムとして、FIP（国際薬剤師・薬学連合）のビジョン・ミッションについて、アジアでのコロナ禍での取り組みについて、医療アクセス、予防接種など、薬局のテクノロジー、DX、テレファーマシーについて、薬学教育・薬剤師教育について、地域薬局の取り組み、地域住民の健康への取り組みなどが取り上げられていました。

特に薬局のテクノロジーやDXについては、マレーシアはかなり進んでいる印象でした。

私が特に興味を持ったのは、FIPのビジョンについてです。FIPでは、SDGｓ（持続可能な開発目標）を土台として、21のFDP（FIP開発目標）を設定しています

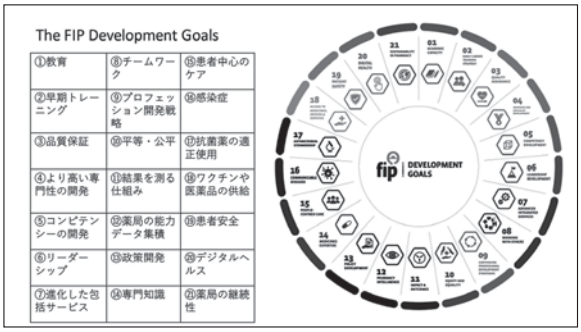


(図)。その目標の１つ１つにどのように進めていくのかの実務・学問・共育の３つの視点で行動計画プロセスが決められており、結果のモニタリング指標が策定されています。

「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられる」、そのために、『世界中で薬局を進化させる』という大きな目的があるということが示されました。

マレーシアは、医薬分業のシステムは進んでいません。薬局では、健康になるためのカウンセリングや医薬品の販売が主であり、ヘルスチェックや禁煙の取り組みなど薬局向けのカウンセリングプログラムが充実していました。図はホームページの引用ですが、このようなプロバイダーが認定し、薬局でヘルスケアを提供できるコンテンツを提供しているようでした。

マレーシアでは、ナシレマやバクテーなどの郷土料理を楽しみましたし、アジアの発展や進化、エネルギーを感じ、日本のトイレや街並みの清潔感やマナーや接客の質の高さを改めて実感しました。



薬剤師の思いは世界共通、どこに行っても仲間がいるという安心感があります。

FAPAは、来年は台湾、再来年は韓国で開催されます。

今年は、コロナ禍ということもあり、日本からは、日本薬剤師会の役員の方を含め10名ほどしか参加がなく、FAPAの実行委員会の方からは、日本からもっと参加してほしいという要請があったようです。日本の薬剤師の活躍をアジアにも発信し、協力していかなければと思いました。

皆様もぜひ、日程を確保して、アジアの薬剤師の進化を肌で感じにいきませんか？

「令和４年度石川県中高生薬剤師セミナー2022」の開催
～メイン会場とサテライト会場をつないで～

「～薬剤師の日～石川県中高生薬剤師セミナー2022」を開催して

石川県薬剤師会　理事　北　嶋　浩　成

７月31日、石川県中高生薬剤師セミナーが石川県地場産業振興センターで開催されました。

今年は、「～薬剤師の日～石川県中高生薬剤師セミナー2022」として、地場産の本会場のみならず、県内の大学、病院、薬局をオンラインでつなぎ、県全域で「薬剤師の日」として盛大に開催されました。

中高生薬剤師セミナーは薬剤師を目指す中学生・高校生とその関係者を対象に、薬剤師の仕事や薬剤師までの道のりなどを知ってもらうためのセミナーです。今回は５回目の開催で、119名の申し込みがありました。

今年は新しい試みとして、本会場の石川県地場産業振興センター以外にも、オンラインでの参加やサテライト会場からの参加といった多様な形態がとられました。

サテライト会場としてエントリーしたのは、当日オープンキャンパスを実施していた北陸大学、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、公立宇出津総合病院の３病院、そして県内各支部の17の薬局です。サテライト会場ではそれぞれ趣向をこらしたイベントも開催され、参加者は薬剤師の仕事について楽しみながら理解を深めていました。

石川県地場産業振興センターの本会場では、県内の病院、薬局、行政、大学のブースが並び、それぞれに勤務する薬剤師と参加者の個別相談会も行われました。

当日はプレセミナー、メインセミナー、フリーセミナーの３部構成で行われ、本会場とサテライト会場、オンライン参加者に配信されました。プレセミナーでは本会場での個別相談のほか、金沢大学附属病院薬剤部の紹介ビデオが配信されました。

メインセミナーでは、中森会長のあいさつと、橋本副会長の薬剤師の全般に関するお話の後、それぞれの職域の先生方から薬剤師の仕事についてのお話がありました。講師として、病院薬剤師は石川県済生会金

沢病院の島崎沙織先生、薬局薬剤師は松村みらい薬局の伊藤隆彦先生、行政薬剤師は石川県健康福祉部薬事衛生課の嵐達哉先生、研究職薬剤師は小野薬品工業株式会社の南圭一先生が事前質問にも回答しながら、仕事内容ややりがいについて話されました。

また、薬学生の代表として、金沢大学６年生の富山桃佳さん、北陸大学６年生の大海仁嗣さんがそれぞれの学業や学生生活について話されました。

参加者からの事前質問では、薬剤師の仕事内容に関する事が多く寄せられていましたが、他にも大学でのお金のことや勉強の内容や勉強時間、薬剤師への適性はどうかなど薬剤師になるまでの質問もありました。個別相談会では北陸大学、金沢大学のブースに多くの人が訪れていました。今年はサテライト会場とオンラインでも相談ができ、運営スタッフが相談者と担当者とのマッチングを行い、時間いっぱい相談が行われていました。

後半のフリーセミナーでは、各サテライト会場で分包機などを使用した薬剤師体験やアロマスプレー作りなど多彩なイベントが行われました。その中で、北陸大学のキャンパスツアーと公立宇出津総合病院の病院ツアーが配信され、本会場でも多くの参加者が見入っていました。

セミナーの会場設営から運営までを石川県薬剤師会の事務局をはじめ、各職域から総勢50名以上の運営スタッフがおこないました。サテライト会場も含めるとさらに多くのスタッフがかかわった１日でした。

セミナー参加者だけでなく運営スタッフも、日頃接する機会の少ない職域の先生方と交流でき、充実した「薬剤師の日」となったのではと思います。

「石川県中高生薬剤師セミナー」参加者から寄せられた感想

- 大学生やいろんな場所で働く薬剤師さんの話を聞けたのが良かった。
- 興味のあった病院の職員と直接質疑が出来て良かった。
- 現役の方と話せて知れたことが多かった。
- 薬剤師の仕事の幅の広さを感じることが出来た。
- 自分が思ってたより仕事の種類があった。
- 仕事の内容がよく分かった。
- 薬剤師の仕事内容をよく理解していなかったので、今回のセミナーは大変参考になった。
- 薬剤師について知らなかったことをいろいろ知ることができた。
- 将来のビジョンが見えた。
- 薬学部に関してあまり聞く機会が無いのでしっかりと質問できる時間があった。

・薬剤師として活躍できる分野がたくさんあるとわかった。
・自分が知らなかった薬剤師の仕事がいっぱい知れてより興味を持てた。
・薬剤師さんがしている仕事について幅広く詳しく知ることができた。
・薬学部からいろいろな職業が選べることを知れた。
・薬剤師は薬を使っているイメージだったけど、実際は患者と話したりする機会も多くあるんだと知った。また、病院や薬局だけでなく、行政に薬剤師がいることにすごく驚いたので、そのことについてしれて良かった。大学でも、認定薬剤師や、大学院についてのこと、大学からどう進むか、入試や奨学金についても、たくさん知ることができた。
・薬剤師の仕事内容について詳しく知れて薬学部に進学したいという気持ちが強くなった。
・説明は中々難しかったけれど前より興味が持てた。こんな経験は早々ないのでいい経験になった。
・実際に病院の現場を見て雰囲気を味わえた。
・理系の学部は進学後の進路が決まっているようなイメージがあったが、薬剤師は資格をとったあとでもさまざまな働き方があると知ることができた。
・薬剤師が行政でも働いていることや、患者さんと薬を繋ぐお手伝いをしている大事な仕事だと知ることができて良かった。

公立宇出津総合病院での石川県中高生薬剤師セミナー2022の開催報告

公立宇出津総合病院（現：金沢大学附属病院　薬剤部）　板　井　進　悟

2022年７月31日に開催された石川県中高生薬剤師セミナー2022ですが、サテライト会場の一つとして公立宇出津総合病院で開催させて頂いたので報告させて頂きます。

宇出津病院での一般参加は中学生男子１名とその保護者の父親１名の２名の参加でした。公立宇出津総合病院薬局としては松原先生と自分、事務の蒲田さんの３人で迎えました。能登町内の薬局では、あいの風薬局の西村先生、あおぞら宇出津薬局の坂口先生に当日のお手伝いをして頂きました。

公立宇出津総合病院では、13時からのメインセミナーから参加し、病院内にあるテレビ会議システムを用いて視聴しました。休憩を挟んだ約１時間半の内容は盛り沢山な内容でした。参加した中学生は最初から緊張していたこともあり、少し疲れた様子でした。

その後のフリーセミナーでは病院内の薬局の見学を行いました。一包化と散剤の調剤体験をして頂きました。一包化はお菓子

を用意してセットしてもらいました。散剤では塩化ナトリウムの秤量を体験して頂きました。初めての調剤体験は楽しかったようです。実際に手を動かしながら会話することで、緊張もほぐれた様子がありました。

その後、注射薬の調剤と薬剤師の視点などを説明しました。最後は薬局の先生方も交えて参加者の方々と雑談しました。病院薬剤師の話もあれば、薬局薬剤師からの話もありました。全体的に薬、薬剤師の話は中学生には難しい内容だったようですが、調剤体験は楽しかったと言ってもらえました。保護者のお父さんから、たくさん質問を頂きました。薬剤師がいろいろなことを確認したり、考えたりしていることが分かって勉強になった、面白かったと言ってもらいました。

後半のフリーセミナーの合間に15分ほどメイン会場等へのサテライト中継のお時間を頂きました。病院内の薬局を撮影しながら各種説明しました。宇出津病院では6月から院外処方箋の事前合意プロトコルの運用や院外薬局主導の残薬調整、退院時薬剤管理サマリの提供などを開始し、薬局薬剤師と病院薬剤師が協力して地域の患者さんの薬物療法に取り組んでいる姿勢を紹介させて頂きました。

事務の蒲田さんからは能登町が実施している奨学金等の説明がありました。能登地区にある公立病院の薬剤師不足は深刻で、行政としても手厚い対応を準備しています。直接、説明できるこのような機会は貴重でした。

実際に中高生セミナーを担当させて頂きましたが、参加者からの評価は上々であり、今後も継続されることを期待します。実際、会場が金沢だけだったら、参加しなかっただろうとも言われました。自宅の近くに会場があることで、参加する機会が増えることは能登地区、加賀地区にとって有意義だと感じます。また、薬局薬剤師、病院事務、病院薬剤師など多業種の方々が協力する機会にもなり、その点も良かったと感じています。こういった機会があることで地域の交流が生まれ、相互理解が進み、より地域に薬剤師が貢献できる可能性を感じました。

最後に公立宇出津総合病院を中高生セミナーのサテライト会場として開催させて頂く機会を作って頂いた中森会長、綿谷先生、乙田先生をはじめ石川県薬剤師会の先生方に深く感謝申し上げます。

石川県中高生薬剤師セミナー・サテライト薬局を終えて

はくい薬局　平　場　啓一郎

毎年当たり前に行われていた中高生セミナーでしたが、近年は他の行事と同様コロナ感染症の影響でなかなか開催されていなかったように思います。思えば３年前、自分の嫁から「こんなんあるけどしっとったけ？」と中高生セミナーのパンフレットを持ちながら言われ、嫁も長女を参加させたかったようですが、そのときはタイミングが悪く、応募人数を超えていたのであきらめた経緯がありました。

今年は３歳年下の次女が高校１年生になったので「ちょうどいい歳になったなーとか、機会があれば参加させたいなー」とぼんやり思いながらいた時でしょうか？５月頃、今年の中高生セミナーはメイン会場とサテライト会場に分かれてZoomを利用してすごい人数（400名？）を募集するようだとか！サテライト会場はさまざま地域の薬局を募り、体験型のセミナーになるようだ！とか聞きました。自分の娘は父親が薬剤師だという事はわかっているとは思いますが、実際に薬剤師がどんな仕事をしているのか分かる、いい機会かと思い、まず娘を参加させようと行動しました。またそのころ、私の上長も今年は中高生セミナーあるけどサテライト会場としてはくい薬局も参加してみないと相談があったので是非やってみたいと話がすすんでいきました。娘の方も参加するなら私だけでは？と思ってくれたようで自身の部活の同輩を４名集めてくれました。そんな中、四苦八苦しながら当日まで準備がすすんでいきました。

迎えた当日７月31日ともなり、さすがに暑い日でした。今後は７月31日を石川薬剤師の日にしていきましょうとなり、今後もなんらか毎年のようにイベントが行われていくのでしょう。

まず、始まったのはメイン会場で県薬橋本副会長の話からはじまり、若い薬剤師代表の病薬・薬局・行政・研究の方々が色々学生にわかりやすく興味がわくように講演がはじまりました。ちなみに行政代表の嵐先生は、２年前はくい薬局にて実務実習研修を受けた実習生でした。彼の姿をみると「立派になったなー」とか「彼の実務実習に関わってよかったなー」としみじみしました。メインセミナー後サテライトフリーセミナーが行われました。

当日は娘の同輩４名が予定通り参加してくれました。はくい薬局でのセミナーは体験型で、テスト患者として用意した処方箋を利用して、まずレセコンへのお薬の入力をしてもらいした。そこからレセコンに連動した自動錠剤分包機、散薬監査装置を利用して錠剤の一包化と散剤の計量・軟膏練

太郎を使用して軟膏剤の混合などしてもらいました。そこから薬剤師は自分で調剤をした医薬品の監査を他の薬剤師にやってもらうことが多いことから二重監査も体験してもらいました。彼女たちは普段は調剤室に入ることもないので好奇心旺盛にわくわくしながら分包機のなかで圧着される分包紙をめずらしそうに見ていました。

その後、薬剤師へ進学するにあたってアドバイスなど色々わかる範囲で相談にも答えました。やはり私立大学の薬学部はお金がかかること、６年間大学に通わないといけないことなど不安を抱えているようでした。しかし、もちろん大学で一般的に使われる奨学金や、その他にも企業や病院が出してくれる奨学金もあることなど金銭的な不安は何とかなるのではとお話しました。しかし薬剤師国家試験は難しく、大学側も薬学としての勉強の他、十分に薬剤師国家試験に合格できる学力がないと６年間で卒業することも難しいと現実的な事もお話させて頂きました。はくい薬局のセミナーは１時間をすこし超えてしまいましたが、生徒さんは楽しかったとか、勉強になりましたと娘からあとから連絡がありやってよかったなーと思いました。

最後に今回、サテライト会場を予定していた薬局の中でも、なかなか生徒さんが集まらなかった会場も多くあったかと思います。私自身もこれが終わった後、近隣の病院スタッフさんから「娘を薬剤師にしたいんやけど、どうやったらいいんやろ」と聞かれたこともありました。

この中高生セミナーは本当に将来の優秀な薬剤師の確保のため有効な手段と思います。でもなかなか本当に薬剤師になりたい子にその情報がいっているのかミスマッチがまだある気がします。学校薬剤師などを利用して十数枚程度薬局に配布して会場にきてくれる方もいらっしゃいますが、最近の中高生がインスタやツイッターなど上手に使っているのを見ると、これからはこれらSNSを利用して中高生セミナーを７月またやるよーと配信できないでしょうか？なかなか大変ですがやり方によってはもっと人が集まるいいイベントだと思います。

次世代の薬剤師はAMAZON薬局やらAI薬剤師に対抗しないと、厳しい時代に変わっていくことが考えられます。そんな中、石川県薬剤師会は、それらに負けない薬剤師を育成するため会員皆でがんばりましょう。

加賀地区のサテライト会場として参加して

箔山堂作見薬局　加　藤　仁　美

チーム医療、在宅医療など医療のしくみが高度に進展し、薬の専門家である「薬剤師」のニーズが高まっている昨今、石川県の医療を担う薬剤師や新薬の開発研究など薬学の勉強に興味を示す中学生、高校生および保護者の皆様への理解を深めていただくことを目的とし、第５回目となる「石川県中高生薬剤師セミナー2022」が７月31日に開催されました。

今年は石川県地場産業振興センターをメイン会場とし、県内各地域いくつかの薬局をサテライト会場として行われました。当薬局は加賀地区のサテライト会場として参加しましたので、当日の様子をご報告させていただきます。

事前に応募があったのは市内在住の中学生２名。薬局の待合室を利用し、テレビをモニターとして会場と繋ぎ、まずはメインセミナーの講義を聴講しました。中森会長の想いのこもったご挨拶の後、橋本副会長より薬剤師の概要紹介と現状説明、次に石川県ゆかりの若手薬剤師により病院、薬局、公務員それぞれの部門の仕事内容の紹介を絡めたメッセージがありました。また、製薬企業の業務紹介、現役薬学生からのメッセージもあり、薬学部に進むために必要なことや学生生活についての内容に二人の中学生は具体的な内容を興味深そうに聴いていました。

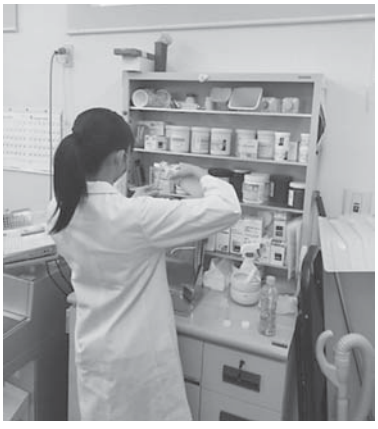
その後、各部門の方々と個別相談のできるブレイクアウトルームが設置され、参加者は知りたいこと聞きたいことを個別に質問することができました。

当会場ではセミナー受講後に現場の実務を体験してもらおうと企画し、薬局内の見学と実際に白衣を着て調剤体験をしました。

お菓子や砂糖を薬の代わりとして秤量、錠剤分包機や散剤分包機にかけ、名前や用法の印字をしたり、ジュースを水剤に見立て計量混合したりする体験も行いました。実際の機器に触れることは貴重な体験になったのではないかと思われます。

最初は緊張の見られた参加者でしたが、質疑応答したり、調剤体験を一緒にしたりしていく中でだんだん楽しんでいる様子が見られ、有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。

コロナ禍がきっかけのサテライト開催ではありましたが、広い石川県において各地域で次世代の薬剤師をたくさん生み出すためには、このようなイベントが定期的に開催されること、地域に周知されていくことは有益であると考え、今後も引き続き開催されることを願います。



最後に、開催にご尽力いただいた方々、講師の先生方、協力いただいた全ての皆様に深くお礼申し上げます。

薬剤師国家試験にチャレンジ

北陸大学薬学部　実践実学系
准教授　岡　田　守　弘
教　授　大 本 まさのり（執筆順）

６年制教育における国試は345問出題され、その約４割は実務に関するものです。本紙上で解説する問題は、令和４年２月19～20日に行われた第107回国試の中から担当者がいろいろ考えて選んだものです。

第107回国試についてご存じの先生も多いと思いますが、薬剤師になられた先生がどのような国試を受けてこられたのかを再確認する機会として、また実務実習生を受け入れてくださっている先生におかれては当解説が実習指導のご参考になれば幸いです。

昨今、新規作用機序の薬剤の研究・開発に伴って医療も日進月歩で更新・洗練されており、病態に対する薬物治療のアルゴリズムが増えてきました。それを投影するように近年の実務領域における薬剤師国家試験の実践問題は設問だけでなく、検査値等を含んだやや長めのリード文といずれも白黒はっきり区別できそうにない選択肢がずらりと並んだ構成になっています。ここで正確な解答を導き出すためには、患者背景を読み解く読解力と薬物治療ガイドラインに対する造詣、そして薬剤師としての鋭い感性が必要となります。今回、その一例として問328を解説します。解答は「解なし」となった問題ですが、出題者側のより実践的な症例を出題したいという意図が感じとれます。

我々教員は実務実習において大学教材のようなスマートな症例ではなく、「解なし」の難渋する実症例をできるだけ数多く実習生に経験させてほしいと思っています。是非、実症例の複雑に絡まった問題点を現場の薬剤師の視点から一つずつ紐解いていくプロセスをご指導ください。

問328（実務）

45歳女性。身長152cm、体重40kg。アルコールの慢性的な大量摂取に伴う慢性肝炎治療のため、これまで入退院を繰り返してきた。今回、Child-Pugh分類でB（８点）の肝硬変と診断され、治療目的のため入院となった。

（入院時の検査値等）
脳症Ⅱ度、腹水 2L、総ビリルビン 2.5 mg/dL、血清アルブミン 3.0 g/dL、
PT-INR 2.0、AST 85 IU/L、ALT 80 IU/L、γ-GTP 21 IU/L、
アンモニア 420μg/dL、血清クレアチニン値 0.7 mg/dL、
eGFR 71.0 mL/min/1.73m^2、Na 142 mEq/L、K 4.8 mEq/L

（入院時の持参薬）
レボカルニチン内用液
プレドニゾロン錠
ウルソデオキシコール酸錠

ラクツロースシロップ
レバミピド錠

脳症及び腹水貯留の改善が思わしくないことから、追加を提案する薬剤として、適切なのはどれか。２つ選べ。

1　ラクチトール水和物散
2　バンコマイシン散
3　リファキシミン錠
4　トルバプタン錠
5　アセタゾラミド錠

【正答】　解なし　（※適切なのが「3」のみと考えられるため）

≪解説≫

1　ラクチトール水和物は非吸収性合成二糖類の非代償性肝硬変に伴う高アンモニア血症に用いられる治療薬です。本症例のような肝性脳症を呈している病態も適応をなりますが、持参薬をみると既に同種同効薬のラクツロースシロップを服用しています。したがって、ラクツロースシロップと切り替え提案ならあり得るかもしれませんが、さらにラクチトール水和物を追加する提案は実臨床において一般的ではありません。

2　バンコマイシン散はグリコペプチド系抗生物質製剤です。まれに肝性脳症の原因となる腸内アンモニア産生菌を抑える目的で用いられることがありますが、保険適応外となるため、実臨床で積極的に使用されるものではありません。

3　リファキシミン錠は難吸収性リファマイシン系抗生物質です。肝性脳症で高アンモニア血症を呈している本症例への投与は妥当で、肝硬変診療ガイドライン2020と矛盾しません。

4　トルバプタン錠はV_2受容体遮断薬です。腹水のコントロールが不十分な本症例の場合、早期の段階での使用が肝硬変診療ガイドライン2020でも推奨されています。しかしながら、本剤の効能又は効果には「ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留」とあり、保険適応を考慮するとリード文から利尿薬の先行投与を読み取ることができません。また、本剤の禁忌として「適切な水分補給が困難な肝性脳症の患者」とあり、脳症Ⅱ度で改善が思わしくないというリード文等の記述から本症例の状態を想像すると、トルバプタン錠の投与後に飲水が適切に行えるのか疑問が残ります。よって、本症例へのトルバプタン錠の投与は保険適応外使用や禁忌に該当する可能性を包含します。

5　アセタゾラミド錠は炭酸脱水酵素阻害薬で、肝性浮腫の適応を有していますが、本症例に対して安易に投与してはいけません。理由としては肝硬変等の進行した肝疾患又は高度

の肝機能障害のある患者に投与した場合、血中アンモニア濃度を上昇させ、肝性昏睡を誘発する恐れがあるからです。アセタゾラミド錠は肝硬変診療ガイドライン2020でも推奨する利尿薬として明記されておらず、本症例の状態を思索すると追加投与に躊躇します。

（文責　岡田　守弘）

薬剤師国家試験では、いわゆる専門知識以外に薬剤師の倫理や正しい行動を問う内容も毎年出題されます。薬剤師の倫理規定や行動規範に係るものとして、薬剤師綱領があります。薬剤師綱領は、1973年日本薬剤師会で制定され、薬剤師のあるべき姿が３つの条文に集約されています。この薬剤師綱領をさらに分割して明示しているのが、前文および15項目からなる薬剤師行動規範であり、54年前に日本薬剤師会で制定された薬剤師倫理規定が一度改定を経て2018年に再び全面的に改定されました。第107回薬剤師国家試験では、「薬剤師行動規範」というキーワードが取り上げられていましたので以下の通り紹介します。

問78

2018年に制定された「薬剤師行動規範」の内容として、適切でないのはどれか。**１つ**選べ。

1　患者の自己決定権の尊重
2　差別の排除
3　医療資源の公正な配分
4　収益性を優先した医薬品供給
5　国民の主体的な健康管理への支援

【正答】　4

≪解説≫

薬剤師の責務は、医薬品供給により経営的収益を優先するのではなく、薬剤師の職能を十分に発揮し、地域や社会が求める医療及び介護提供体制すなわち地域包括ケアシステムの適正な推進に貢献することです。４番以外の選択肢は、すべて薬剤師倫理規定から薬剤師行動規範へと改定された中で新しく盛り込まれた項目です。薬学教育モデル・コアカリキュラム（現行版）では、薬剤師に求められる基本的な資質のひとつとして、薬剤師の義務及び法令を遵守し、人の命と健康を守る使命感、責任感及び倫理観があるということを挙げています。

薬学生は、薬剤師の心構えについて６年間を通して常に意識する必要があります。本学の学生も、実務実習に参加するまでに受講する科目の中で、法令・規則、倫理について事例を通して深く理解させていますが、実際の実務実習に参加して本当の意味で気付くことが多くあると思います。実習生が薬剤師として正しい行動や考え方を学ぶ中で、薬剤師行動規範の文書における意味を頭で理解しているに過ぎず、実際に臨床の場で直面する様々な問題に戸惑いや葛藤すなわちモラルジレンマを経験することでしょう。実務実習指導薬剤師の先生方からどのように考え行動すべきか臨床現場での実際ということについてご指導して頂きたいと思っています。

（文責　大本　まさのり）

支部だより

令和４年度石川県防災総合訓練参加レポート

小松能美支部　災害支援担当薬剤師　永　井　博　人

【概要】

本年度の防災総合訓練の開催地は、川北町。開催日時は、令和４年９月25日(日曜日)８：00～12：00で、参加機関は98機関6,972名（内川北町地域住民6,109名）にも及ぶ大規模な防災総合訓練であった。

本防災訓練の想定は、「県内では、未明から明け方にかけて、白山市の山間部などで記録的短時間大雨警報が複数回発表されるなど、加賀地方を中心に急激な降雨が発生しており、川北町では洪水警報が発表され、手取川では氾濫危険水位（３m）に達し、手取川氾濫危険情報が発表された。また、気象庁からは加賀地方において線状降水帯が発生するおそれがあると発表された。こうした中、森本・富樫断層帯を震源とするマグニチュード7.2の地震が発生し、川北町で震度６強が観測された。地震発生後、手取川下流において周辺をパトロールしていた金沢河川国道事務所から、地震による堤防（右岸）の亀裂が発見されたとの報告があり、川北町では決壊による水害の危険性が高まった。」といったものであった。

今回の訓練では、８月上旬に県内で発生した大雨による水害の経験も踏まえ、震災のみならず水害も同時発災との設定の上、訓練が行われた。

薬剤師会からは、４名（綿谷敏彦、澤野和彦、森　英毅、永井博人）が参加した。

【訓練内容】

薬剤師会が担当するのは、川北中学校併設の武道館１階において、「災害用医薬品・医療機器等輸送訓練」ならびに「救護所等でのお薬相談」であった。訓練内容はこれまでの防災総合訓練で行われてきた内容と同様である。

「災害用医薬品・医療機器等輸送訓練」では、石川県・石川県薬業卸協同組合が用意した災害用医薬品を避難所等の医療救護所にて薬品の受取・確認・仕分けなどを、模擬医薬品（空箱）を利用し行った。「救護所等でのお薬相談」では、パネル等を用いて災害時に困らないよう平時からの「災害時のお薬の備え」や「お薬手帳の重要性」の啓発を行った。また、クロノロジー

を用いて出来事を時系列に記録していく訓練を行った。

【感想】

今回防災訓練に参加して思うことは、「お薬手帳の重要性」も東日本大震災以降では、かなり世間に普及してきており、改めて啓発というのも実際行ってみると、若干新鮮味に欠けた印象を受けたことである。今後、このような医療情報はどんどん電子化されることが予想されるが、災害時にどのように電子化情報を確保するのか（電源やインターネット環境などを含む）ということを訓練に反映していくべきではないかと感じた。実際に馳県知事による訓練視察においても、アプリ利用などの電子化対応についての質問も受けた。これから

は、このような事態への対応を求められると考えられる。

また、同じ会場で行われていたボランティアセンターの開設・運営訓練なども参考に、災害時に薬剤師を受け入れる立場になったとき、ボランティアの受け入れや各地への派遣について、どう動くのかという訓練も必要なのではないかと感じた。

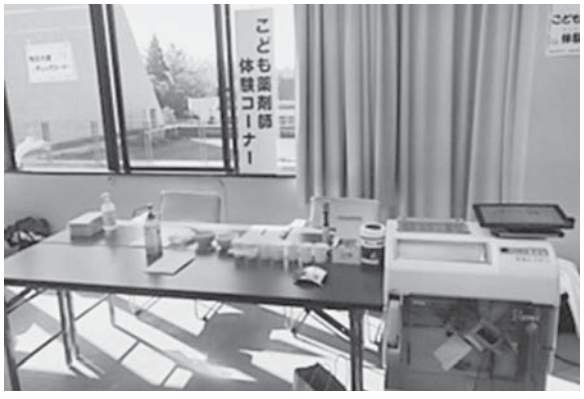
白山市福祉健康まつり「こども薬剤師体験コーナー」に参加して

白山ののいち支部　横宮町あおば薬局　小此内　麻　紀

９月25日(日)、松任総合運動公園体育館にて白山市福祉健康まつりが開催され、医師等による健康相談、外では福祉車両の展示も行われていました。

晴天のおかげか親子連れも多く、かなり活気がある「福祉まつり」となりました。

薬剤師会ブースとしては10人の支部薬剤師協力のもと、「お薬なんでも相談」「物忘れ度チェックコーナー」「こども薬剤師体験コーナー」の３つが設けられ、私はその中の「こども薬剤師体験コーナー」に関わらせていただきました。



実習生に地域貢献活動として見学してもらうには絶好のチャンスだったので、お休みの日でしたが同行してもらい、見学のつもりがガッツリお手伝いしてもらいました（感謝）。

前半＆後半に分かれ、私たちは後半の部でしたが、用意していた薬袋は前半でなくなり急遽薬袋の代わりにジップロックを使用しました。

まず、代替薬袋ジップロックに、お子様自身の名前を記入。自分で名前が書ける子どもは極力自分で記入してもらい、文字が

逆さまになっても愛嬌愛嬌。自分で体験する事が大切とそのまま使用しました。その後【マーブルチョコ１粒（色自由）分１朝食後　５日分】 分包するため、７色のマーブルチョコから〈５粒〉選び、薬匙で取ってもらいました。

チョコだと大喜びする子、全部同じ色を選ぶ子、優柔不断な子でも「何色選んでもいいんだよ」と声掛けすると恥ずかしがりながらも選択完了。その後、分包機の印字操作＆説明は実習生にお任せました。秤量皿に選んだチョコを持ち、上のマス目に一個ずつセット→スタートボタンを押す→分包機から分包した薬（チョコ）が出てくる。

薬剤師にとっては日常的なこの一連の作業を自分自身で行うことが楽しかったのか、分包された薬（チョコ）を見てどの子も驚き、感激の表情。しゃがみこんで分包されたチョコを興味津々で見る子も印象的でした。いつもは薬局に行っても待合室では分包機の音だけしか聞こえず、何をしているかわからないからかと思いました。

完成した分包チョコは自分で書いてもらった薬袋に入れ、ご本人へのお土産としてお渡ししました。帰り際には、「薬食べた後は歯を磨いてね」と声掛する実習生に感無量。子供たちは満面の笑顔。疲れなんて吹き飛びました。

コロナ禍でなければ、ミニ白衣を着ると更にリアルさが増すだろうと残念に思った点もありました。今回は色自由でしたが、手書き処方箋を書いてチョコ３錠（赤－黄－緑）毎食後などもチャレンジしてほしいと思いました。こども薬剤師体験コーナーに来てくれた100人近い子供たち、その中で一人でも「将来なりたい職業が薬剤師」と言ってもらえたら幸いです。

実習生の方からも感想をいただいています。

≪北陸大学５年　下中須弥子≫

白山市福祉健康まつりにて、“こども薬剤師体験コーナー”のお手伝いをしました。

体験されたお子さんの多くは、チョコが姿を消した後１粒ずつ分包されて出てくる様子を不思議そうに眺めていました。自分がセットした色順で分包されることに興味を示すお子さんもいました。またお子さんだけでなく親御さんも分包機の仕組みに興味を示されており、「薬ってこうやってできるんだね」とお子さんと会話されている姿をしばしば見かけました。

今回の体験は、お子さんに薬剤師という職種を知ってもらえた機会になったと思います。またそれだけでなく、親御さんが感じられていた日頃の疑問を伺う機会になったと思います。実際に「薬局に行ってもすぐ薬が出てこないから、どんなことしているのか気になってたのよ」と話してくださった方もいました。こうした本音は、地域の福祉健康まつりだからこそ伺えたと思います。本音を伺えたことで、薬剤師と地域の方々との心の距離がぐっと近づいたように感じました。

委員会だより

「かかりつけ薬剤師へのステップ1,2,3(全5回シリーズ)」の開催

かかりつけ薬剤師・薬局機能促進事業委員会　塩　谷　明　美

かかりつけ薬剤師・薬局機能促進事業委員会では、特別研修会として「かかりつけ薬剤師へのステップ１，２，３（全５回シリーズ)」を開催しています。

令和３年度から認定薬局が実施され、かかりつけ薬剤師・薬局機能の益々の促進が行われていることから、今年度は薬薬連携、地域におけるかかりつけ薬剤師としてのスキルアップ及び復習を兼ねて全５回シリーズのWEBによる特別研修会を開催することとしました。

第１、２回では病院薬剤師から薬局薬剤師に向けた薬薬連携における基本と相互理解を目指した内容を、第３回では地域における薬局薬剤師の在り方を、第４回ではトレーシングレポートのスキルアップ術を、第５回では薬局DXで今後の薬剤師業界における必須事項について講義していただきます。

第１回は、11月22日(火)19時30分～21時、金沢大学附属病院　薬剤部　磯田和也先生から「ID-Linkの活用～検査値の活用方法について～」と題して講義していただき、腎機能、肝機能の検査値について実際の症例も含めて学ぶことができ今後の薬剤師業務に役立つ大変有意義な研修会となりました。

第２回は、12月６日(火)19時30分～21時、石川県済生会金沢病院　薬剤部　室田恵里先生から「入退院連携（退院時薬剤情報、薬剤管理サマリーなど）の取り組み」と題して、金沢大学附属病院　薬剤部　原祐輔先生から「乳癌診療トレーシングレポート実施と薬薬連携」と題し講義していただき、シームレスな薬薬連携を実施するための大変有意義な研修会となりました。

研修会	日 時	テーマ	講 師
第1回 ステップ1	令和4年 11月22日(火) 19:30~21:00	ID-Linkの活用 ・検査値の活用方法について	金沢大学附属病院 薬剤部　磯田 和也 先生
第2回 ステップ2	令和4年 12月6日(火) 19:30~21:00	病薬連携 ・入退院連携(退院時薬剤情報、薬剤管理サマリーなど) ・乳癌診療トレーシングレポート実施と薬薬連携	石川県済生会金沢病院 薬剤部　室田 恵里 先生 金沢大学附属病院 薬剤部　原 祐輔 先生
第3回 ステップ3	令和5年 1月17日(火) 19:30~21:00	地域連携報告会 ・在宅ネットワーク現状について ・地域における連携についてディスカッション	石川県薬剤師会 副会長　橋本 昌子 先生 常務理事　松田 泰美 先生 理事　坂野 由宇希 先生 能登北部　新井 伯英 先生 七尾鹿島　山﨑 雅恵 先生
第4回 ステップ4	令和5年 2月21日(火) 19:30~21:00	トレーシングレポートの活用 ・トレーシングレポート活用術について ・トレーシングレポート事例集作成と活用について	石川県薬剤師会 副会長　橋本 昌子 先生 山﨑 敏誉 先生
第5回 ステップ5	令和5年 3月14日(火) 19:30~21:00	薬局DX	石川県薬剤師会 理事　坂野 由宇希 先生

第１回は、173名が、第２回は158名が受講するなど専門職能につく薬剤師としての関心の高さが窺えました。

全５回シリーズのプログラムは前ページのとおりです。

単回での受講でもかまいませんが、全５回シリーズを受講された方には修了証を交付しますので、第１回、第２回受講の方は全５回の受講をお勧めします。

診療情報共有ネットワーク参加について

ICT（IDリンク）委員会　松　田　泰　美

皆さんは石川県における診療情報共有の為のネットワークをご存じでしょうか？

現在、県内には３つのネットワークグループ（いしかわ診療情報共有、ハートネットホスピタル及びたまひめネット）があり、そのいずれもID-Linkというプラットフォームにより運用されています（図）。そのため全てのグループに互換性があり石川県内であればどの参加医療機関でも医療情報の共有が可能です。（おそらく同一都道府県内でプラットフォームが統一されているのは石川県のみでは・・）

元々は医療機関間の診療情報共有システムとしてスタートされましたが、地域包括ケアシステムが推進される中で多職種の参加を進める方向性となり、薬局については令和３年より県薬剤師会が参加推薦窓口となることを「いしかわ診療」、「ハートネット」の各協議会様よりご承認頂き、現在は推薦と登録手続きの業務を行っているところです。

さて、このネットワークに参加する事で

３つのグループ（ユニオン）はすべてID-Linkという同じサービスを採用しました。
一部ルールが異なりますが相互に情報共有できる仕組みを実現して、共通の操作方法でご利用いただけます。

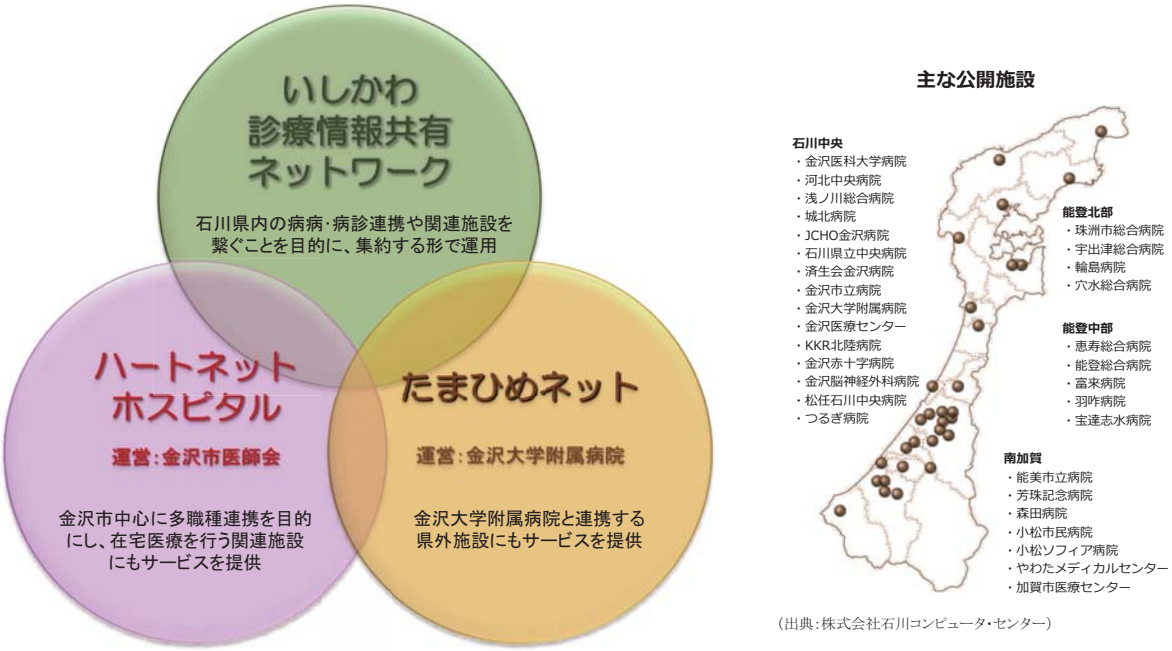


図　３つのネットワークグループ（いしかわ診療情報共有・ハートネットホスピタル・たまひめネット）

薬局の業務にどのような変化がもたらされるのでしょうか？一番の大きな違いは得られる患者情報の内容です。

今まで医療機関より提供される情報の殆どは処方内容しか（幾つかの医療機関からは検査データなどが添付されていますが）ありませんでした。

それがこのシステムを利用する事で（医療機関により開示項目は違いますが）検査内容はもちろん病名、カルテの内容、看護サマリーなどこれまで得られなかった情報入手が出来るようになり、しかも過去に遡り時系列で確認する事が出来ます。

つまりネットワークを利用することで得られる情報量が格段に増え今より更に患者個々の状態に合わせた指導・説明が可能になるという事です。まだご参加頂いていない薬局様は是非参加をご検討頂ければと思います。

ただ得られる情報量が増えればそれらを正しく利用する目も必要です。

そのため、石川県薬剤師会では得られた情報を適切に判断するための研修会を順次開催して参ります。既に登録をされている方もこれから希望される方も診療情報を正しく活用するための研修会へのご参加も併せてお願い致します。

日本薬剤師研修センター（G01）の電子化について

薬剤師生涯学習事業委員会　藤　原　秀　範

令和４年４月１日から日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤師制度の研修受講単位の取得方法、申請方法等に関する手続きが電子化され、G01研修シール（紙媒体）が３月31日で廃止されるなど「薬剤師研修・認定電子システム（PECS）」（以下「PECS」）による運用が始まっています。

１　PECSの薬剤師個人登録について

日本薬剤師研修センター（G01）の研修受講単位を取得するためには、PECSに薬剤師個人登録することが必須となり、個人登録してなければ日本薬剤師研修センター主催の研修会や学術集会等において研修受講単位が取得できません。また、システムの関係で研修会受講後にPECSに登録しても遡って研修受講単位は交付されません。

【PECSの登録】

①日本薬剤師研修センターホームページ右上「薬剤師支援システム」をクリック

②「薬剤師入口」からPECSの登録を行う。

★登録に必要な情報：氏名・生年月日・薬剤師免許番号・免許登録年月日・電話番号・住所

★登録入力時に薬剤師免許番号に入力誤りが多いとのことです。特に生年月日、薬剤師免許番号・免許登録年月日は、修正できないため確認画面で十分な注意を払って登録してください。

★登録完了後、ユーザーIDがメールで送信されます。ユーザーIDを紛失するとPECSが利用できなくなりますので、直ちに印刷するなど保管してください。

★PECSに登録すると薬剤師固有のQRコード（図１）が交付されます。このQRコードは集合研修及び学術集会の受講確認に使用するものです。

図１　QR コード表示（G01）

2　研修受講単位の取得方法について

【現地参加】

①事前にPECSにログインし、QRコード（図１）を書面に印刷して会場へ持参してください。

★スマートフォンの画面にＱＲコードを表示し、何らかの不具合で読取ができなかった場合は、受講者本人の責任となり受講単位は交付されませんので、書面印刷を推奨します。

②研修会（学術集会）開始・終了時に会場に設置の読取装置にかざして出席受付・退席受付をします。

★遅刻・早退は一切認められません。

③取得単位はPECSで管理されます。

【WEB参加】

①研修会案内状に記載の方法でWEB研修会を受講してください。

★受講確認は視聴ログとなります。キーワードを用いる方法ではありません。

★研修会開始から終了までの視聴ログが確認できない場合、システム上受講単位の付与はできません。

★遅刻・早退は一切認められません。

②単位は研修実施機関による必要な手続きを経た後、研修受講日付けで付与されます。

③取得単位はPECSで管理されます。

3　日本薬剤師研修センターの電子化によるG01研修単位とG08研修単位との相互利用について

G01研修単位をG08研修単位として、またG08研修単位をG01研修単位として使用することができます。

なお、石川県薬剤師会研修シール（G08）は現在のところ電子化の予定はなく、令和４年４月１日以降もG08研修シール（紙媒体）を発給します。

【G01研修単位をG08研修単位として使用する場合】

①薬剤師本人がPECSにアクセスして、受講履歴を表示し、払出す単位の「単位払出」ボタンを押します。

②提出先の団体（G08石川県薬剤師会）を選択します。

★いったん発行した後は、提出先団体の変更はできません。

③最終確認。単位が戻せないことの同意にチェックし、「他団体用単位証明書発行ボタン」を押すと「単位証明書」（図２）が発行されますので、印刷前にご自身で保存してから印刷して使用します。

★保存しなかった場合、単位証明書を改めて取り出すことはできず、また単位も復活しません。

④「単位証明書」が従来のG01研修シールの代わりになるので、Ｇ８認定薬剤師申請の際に薬剤師研修手帳に受講年月日、研修名称、研修内容、単位証明書の発行番号等を記載し「単位証明書」を添付して申請します。

【G08研修単位をG01研修単位として使用する場合】

①本会あてにシール番号、研修会開催日及び研修会の名称を記載した「受講証明書発行依頼書」（図３）を提出します。

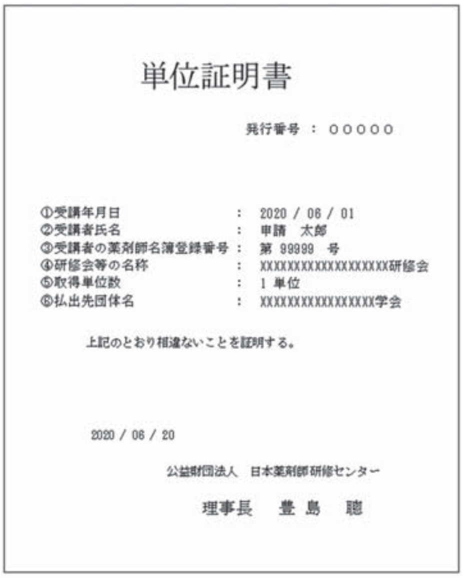
★「受講証明書発行依頼書」は石川県薬剤師研修センターホームページの「申請書用紙等のダウンロード」からダウンロードできます。

https://www.center-kenyaku.jp/system/apply.html

★G08研修シール番号は石川県薬剤師研修センターホームページの「G08研修シールの検索（過去の研修会情報一覧）」から検索できます。

②「研修会受講証明書」（図４）を交付します。

③「研修会受講証明書」はG01認定薬剤師申請の際にG08研修シールを貼付した「研修認定薬剤師研修受講シール整理表（単位記録表）」（図５）に添付して提出します。



単位証明書

発行番号 ： 00000

①受講年月日　：　2020 / 06 / 01
②受講者氏名　：　申請　太郎
③受講者の薬剤師名簿登録番号：　第 99999 号
④研修会等の名称　：　XXXXXXXXXXXXXXXXXXX研修会
⑤取得単位数　：　1 単位
⑥払出先団体名　：　XXXXXXXXXXXXXXXXX学会

上記のとおり相違ないことを証明する。

2020 / 06 / 20

公益財団法人　日本薬剤師研修センター

理事長　豊 島　聰

図２　単位証明書（G01）

発行番号 22-109

研修会受講証明書

受講年月日　2022年4月17日
受講者氏名　石川　太郎
薬剤師免許番号　345678号
研修会の名称　PS講座ネクスト（4月）研修会
研修単位数　2 単位
研修シール番号　22-0001-S

上記の薬剤師は本会研修認定薬剤師制度（認証G08）のもとで実施した研修会を受講したことを証します。

2022年9月15日
公益社団法人石川県薬剤師会
会長　中森　慶滋

注意）申請には、この受講証明書（正本）を提出すること。写しの提出は無効です。

図４　研修会受講証明書（G08）

受講証明書発行依頼書

図３　受講証明書発行依頼書（G08）

研修認定薬剤師研修受講シール整理表(単位記録表)

図５　研修認定薬剤師研修受講シール整理表（単位記録表）（G01）

★PECS関連情報については、日本薬剤師研修センターホームページ「認定手続き等の電子化（お知らせ）」に掲載されていますので、各自でご確認願います。
日本薬剤師研修センター「認定手続き等の電子化（お知らせ）」
https://www.jpec.or.jp/faq/about/ninteitetudukidenshika.html
★PECSに関する質問は直接日本薬剤師研修センターへメールにて問い合わせください。
日本薬剤師研修センターメールアドレス　pecs-info@jpec.or.jp

「伊　達」

なかもり　けいじ

二年ぶりに現地開催となった日本薬剤師会学術大会に参加してきた。仙台へは大宮乗り換えの新幹線。このとき何を読もうかと、本を選択するのが迷うところだ。とりあえずDX系の新書を読みながら仙台まで向かった。大宮からの新幹線のスピードは北陸新幹線よりも早くこれまで経験がしたことのない320km/h。あっという間に仙台についた。非日常の出張時に読むのは小説が良いのだが、とりわけ読みたい本がなかったのと、最近あまり面白い小説と出会っていなかったのもあってか小説は持ってこなかった。

読んでいた本は終わりまであと少し残っていたが仙台駅に本屋さんがあったので何気なくのぞいてみた。比較的狭い売り場のためか新刊を中心に本が効率的に置いてあった。その時に心に響く本の腰巻の文字が目に入った。**「恋人との人生で一番美しい約束を果たすため、男は旅に出る」**この本を手に取り、ページの後ろを見てみるとその日が発売日であった。作者のヘニング・マンケルはスウェーデンの推理小説作家のようだか、この小説は年老いた男性の人生の悲哀を美しく描いているようだ。僕は買うことにした。

55年前に別れた恋人が氷結した海を渡り歩いて男のいる島までやって来るところから物語は始まる。彼女はがんに侵されていて余命いくばくもないことを男は知る。

「私の人生で一番美しい約束はあなたがくれた。いつか森の中の湖に連れて行ってくれるという約束。私はそれが見たいの。まだ間に合ううちにそこへ行って、その湖で泳ぎたいのよ。」

イタリアン・シューズ
ヘニング・マンケル著

物語は様々に物語は展開しながら進んでいき意外な結末が待っている。まるでめまぐるしくストーリーが展開をしていく米国の作家、ポール・オースターの小説を読んでいるようだ。

そして物語は美しい文章で終わっていた。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

写真の裏を見た。ハリエットが地図を描いていた。それは私の島の地図だった。地図の下に彼女の字で〈わたしたち、ここまで来た〉と書かれていた。

私は長い間台所でその写真に見入った。

それからまた蟻を未知の土地へ運び続けた。そして夕方、ようやく終わった。蟻塚はすっかりなくなった。

そのあと島を一巡りした。海の上を渡り鳥が飛んでいた。

ハリエットの書いたとおりだ。

私たちはここまで来たのだ。

これが終着地。まさにここに到着したのだ。

「イタリアン・シューズ」

ヘニング・マンケル著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

ネットを見ていると仙台の国分町に「クロスビー」というジャズバーがあるのを見つけた。その日の夜、僕はタクシーを三越付近で降りて勝手知らない国分町をしばらくうろついて「クロスビー」を探し出した。ライブ演奏をやっているのだ。中に入るとカウンターに一人お客さんが座っていた。しばらくするとその人はいなくなっていた。

僕はカウンターに座りウイスキーのラベルを見ていた。スカイ島のタリスカやアイラ島のラフロイグやボウモア、ジャパニーズウイスキーの山崎や白州などが並べられていた。白州にしようかなというと、バーのご主人が話し掛けてきた。出張で金沢から来たというと、先月の９/23に金沢に観光に行ったばかりだという。「いい街ですね金沢は仙台は何もありませんけど」と謙遜する。「仙台にニッカのウイスキー工場があり仙台だけしか販売していない「伊達」というウイスキーがあるので飲んでみませんか。」という。ロックで「伊達」を口にする。まろやかで飲みやすい。

演奏が始まった。バーのマスターはギターを演奏し、それとドラムとベースを加えたトリオ編成だ。ベースはお店に入ったときにカウンターに座っていた人であった。サムディーやスターダストなど歌物を４曲ほど演奏した後、僕に何かリクエストないかと聞いてきた。「歌物が続いたのでお口直しにブールズ※を、そうですねコンファメーションぐらいどうですか」という。素敵な仙台の街のギタートリオはブルーズをテンポよく弾きだした。演奏が終わってからマスターとジャズの話や金沢の話をした。しばらくすると四人組と二人組のお客様が入ってきて、店内は活気づいてきた。再び演奏が始まる。最後に僕は「Someone to watch over me　リズムはボサノバで。」という普段あり得ないリクエストをした。その変わったリクエストを見事に演奏してくれた。Someoneをボサノバで演奏するのをアルバムでは聞いたことはなかったが、Someoneのボサノバで

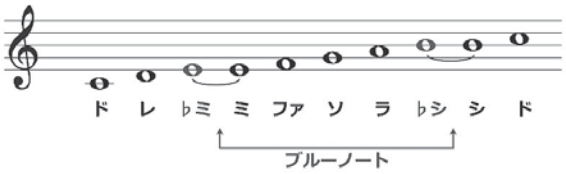
店内は素敵な空気で満たされた。

そして仙台の夜は更けていったのだ。

次の日、医薬品の業界系のマスコミの人たちに呼ばれて飲みに行った時にも居酒屋で村上春樹の小説を肴にし「伊達」をひたすら飲み続けた。伊達が仙台だけでしか売られていないのが残念である。

※英語を日本語に翻訳したとき正確にはブルースではなくブルーズと濁点が付く(blúːz（米国英語），bluːz（英国英語））。ジャズの歴史を作り続けたマイルス・デイビスもマイルズというのが正しく村上春樹のエッセーには必ずマイルズと書かれている。

ブルーズは12小節のコード進行を二度繰り返す。９小節目から10小節目にかけてＥ（ドミナント）からＤ（サブドミナント）という進行になっている。このような進行は本来西洋音楽の和声学では響きが不安定なため使わない。しかしそこからジャズのテイストが生まれてくるのだ。



麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動石川大会に参加して

石川県薬物乱用防止指導員協議会　会長　村　田　世里子

毎年10月１日から11月30日までの２カ月間は、全国一斉に麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動を展開しています。薬物乱用に関する問題を県民一人一人が強く認識し、乱用防止への取り組みを一層盛り上げていくことを目的として、本年は厚生労働省の主催により、11月26日(土)石川県文教会館ホールにおいて、「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動石川大会」が行われました。

特別公演では、厚生労働省麻薬取締官（通称マトリ）としてご活躍され、現在は国際麻薬情報フォーラム副代表理事である瀬戸晴海先生から「スマホとSNSが薬物売買のすべてを変えた！」と題して講演いた

だき、ネット社会の今、スマホやSNSの普及によって、誰もがどこからでもいとも簡単に薬物が手に入る時代になってきているとのことです。若者の間では薬物は様々な別の呼び名でネット上でやり取りされています。また、どこでも大麻栽培が行われていて石川県の例をあげてお話していただきました。また、先生は明治薬科大学をご卒業された薬剤師でもあり、内容は我々薬剤師にも馴染みのある内容でした。

アトラクションとして、大阪税関監視部麻薬探知犬が登場しデモンストレーションが行われました。麻薬探知犬は、全国の税関で入国旅客の携帯品及び外国郵便物等の輸入検査等に活用されており、導入以降、大量の覚醒剤、大麻等の不正薬物の摘発に貢献しているとのことです。

実際に２頭の探知犬が舞台に登場し、麻薬の匂いを嗅ぎつけて知らせてくれたときは、会場から拍手喝采がおこりました。

このコロナ禍にあって、若者の心は非常に疲弊しています。どの子にも薬物事件の被害者にも加害者にも決してしてはいけません。薬物乱用防止指導員のみなさんには、ご自分の地域で薬物乱用防止の輪を広めていただき、犯罪のない安心して暮らせるまちづくりにこれからも貢献していただくことを願っております。

「特殊詐欺注意！」薬局で啓発チラシを

石川県薬剤師会　副会長　藤　原　秀　範

令和４年10月27日(木)、石塚武志石川県警本部首席参事官が石川県薬剤師会を訪れ、「特殊詐欺注意！」と書かれたチラシを中森慶滋会長に手渡し、日頃薬局をよく利用する高齢者の被害が７割を占めていることから、薬を渡す際に「患者さんに一声かけていただいて未然防止に努めていただきたい。」と特殊詐欺被害未然防止に協力を求めてきました。

中森慶滋会長は、「我々は薬だけでなく、色々な生活の状況の相談も受けていますから、ご協力できるのではないかと思っております。」とお答えして受け取りました。

啓発チラシは既に各薬局に配布していますので、患者さんに薬袋を渡す際に啓発チラシを添え一声かけて、被害抑制に一役買っていただきたいと思います。

特殊詐欺被害防止啓発へのご協力のお願い！

石川県警察本部生活安全企画課長　北　村　正　英

石川県薬剤師会の皆様には、平素から警察行政各般にわたり多大なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、県内における特殊詐欺被害につきましては、本年９月末現在、被害件数は62件、被害総額は約１億6,500万円と既に昨年一年間の被害を大幅に超えており、中でも還付金詐欺被害の増加が著しく、今後も被害の拡大が懸念されるところであります。

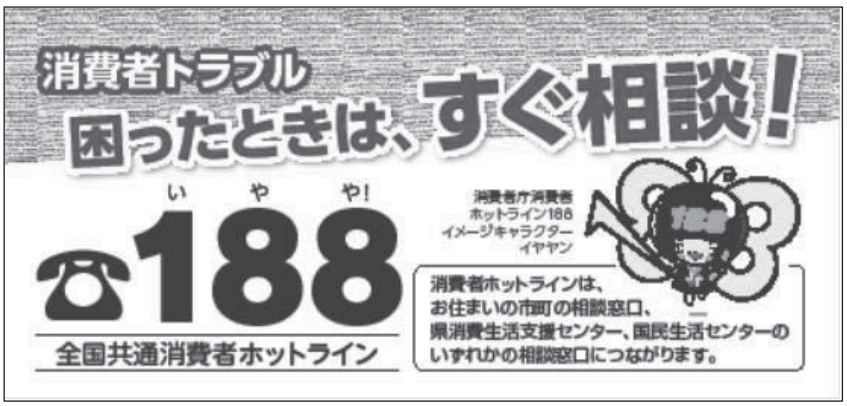
また、依然として被害者に占める高齢者の割合が高く、被害に遭いやすい高齢者への注意喚起が喫緊の課題となっております。

つきましては、御多忙の折、誠に恐縮ではございますが、当方で用意いたしました注意喚起チラシを患者様に配布の上、特殊詐欺への注意を呼び掛けていただきたく、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

≪注意喚起チラシ≫

（表）

（裏）



令和４年１月から９月までに石川県内で発生した特殊詐欺の被害金額は、１億6,500万円です。今年の被害の多くは還付金詐欺で、市役所など自治体の職員を名乗り「保険料の過払いがあります。」、「介護保険料の過払いがあります。」、「保険料が戻ってきます。」などと電話をしてお金が戻ってくると信じ込ませお金をだまし取るものです。市役所の担当者によると「市では電話による還付金の案内は絶対にしていない。ATMの操作をお願いすることも絶対にないので不審な電話があった時は、市役所や最寄りの警察署に一度ご連絡いただきたい。」とのことです。**「電話でのお金の話はない。」**被害に遭わないためのポイントです。

特に高齢者は、冷静な判断ができない場合もあるので、啓発チラシを添え一声かけて注意を呼び掛けてください。

CAP(子どもへの暴力防止)プログラムを通じた地域、学校での人権啓発活動

CAPのと　能登北部支部長　穴水あおば薬局　原　　将　充

私は業務の傍ら８年前から能登地区の小学校に赴き「CAP」というプログラムを届ける活動をしています。昨年度は小学校７校に赴き、子どもワークショップで119名、大人ワークショップで102名に参加してもらい「CAP」を届けることができました。

「CAP」という言葉をご存じでしょうか、「Child Assault Prevention：子どもへの暴力防止」子どもが、いじめ、虐待、誘拐、性被害などさまざまな暴力から自分を守るためために自分自身で何ができるかを伝える人権学習プログラムです。ロールプレイや話し合いをしながら大切な３つの権利「安心」「自信」「自由」について学び自分を守る力を身につけます。従来の「～してはいけません」と行動制限ではなく、「～することができるよ」と行動の選択肢を具体的に伝えます。自分自身を守るためには「自分を大切に思う心＝人権意識」が必要です。誰にも「安心」「自信」「自由」の権利があることを伝え、子どもたちが本来持っている「生きる力」を信じ、肯定し、引き出すプログラムです。

CAPは1978年アメリカ・オハイオ州コロンバス市のレイプ救援センターで誕生、1985年森田ゆりさんにより日本に紹介され、1995年CAPプログラムを実施できるCAPスペシャリスト養成のための講座が始めて開催されました。（養成講座は合計

５日間40時間、子どもの権利、こどもの成長・発達、関係法整備、虐待とは、ワークショップの運営方法など学びます）

CAPプログラムは実際に小学校に赴き子どもたちのいつもいる教室で「いじめ」「誘拐」「性被害」の劇を交え、その時何ができるかをワークショップ形式で行います。子どもたちは劇をすると食い入るようにみて、参加し、その時どうするか活発に意見してくれます。また、いつも来ることのない大人たちが自分たちのために教室に来て教えてくれることを大変歓迎してくれます。

「CAP」では特に、困った時、嫌なことがあった時、どうしていいかわからなくなった時、「安心」「自信」「自由」の権利が取られそうになった時は相談することの重要性を伝えています。ワークショップの後にトークタイムという子どもたちと個別に話す機会を設けているのですが「今まで相談してはいけないと思っていた」「大人に話してもいいことが分かった」という感想が多くでます。このことは子どもの話を聴いて真剣に向き合ってくれる大人がいかに少ないかという現れだと感じています。

暴力は人の心と体を深く傷つけ、人が人らしく生きるために大切な３つの権利「安心」「自信」「自由」を奪う人権侵害行為です。心の傷は「聴く」ことで癒されます。心の傷は見えないことが多く放置されがちです。早期に治療すれば治癒は早まります。子どもの言葉に耳を傾け信じて力になってくれる大人が増えることを願っています。薬局が地域医療担うとするならば、子どもの話を聴いて力になってくれる薬剤師・スタッフが増えることを切に願っています。

CAPプログラムは子どもワークショップ、大人ワークショップがあり地域の住民向けのワークショップも開催できます。現在石川県では「CAPいしかわ」「CAPのと」というグループがあり石川県の子どもたちのために活動しています。CAPプログラムを一緒に届けてくれる仲間の募集をしています、またワークショップの開催依頼、興味のある方、お問い合わせは穴水あおば薬局までいただければ幸いです。

SDGsで目指す薬薬連携

NPO法人 薬薬連携SDGs KANAZAWA　代表理事　宇多（うだ）　裕基（ひろき）

2021年３月より活動を開始した「薬薬連携SDGs KANAZAWA」は、2022年の７月にNPO法人となりました。これまで関わってくださった多くの方々のご尽力のおかげです。本稿では、活動のきっかけ、活動内容、今後の展望についてご紹介したいと思います。

――薬薬連携SDGs KANAZAWAの活動のきっかけ

私は、大学を卒業してから地域の薬局に５年間勤めました。その後病院に転職し、2022年の春から再度地域の薬局（株式会社スパーテル）に転職をしています。活動を始めたきっかけは、前職の金沢市立病院で感染管理に関わっており、石川県の「いしかわクラスター班」にも加わっていたことです。2020年の春、医療用のマスクやガウンといった医療物資が極度に不足した時期があり、危機的な状況でした。そこで、病院薬剤師の知り合いをたどって製薬メーカーや医薬品卸の業者の皆さんに「何とか助けてほしい」とお願いしました。

いざ頼んでみると本当に多くの方が支援をしてくれました。マスク、ガウンなどを大量に寄付寄贈していただきました。プラスチック製造工場さんには通常は製造していないガウンやフェイスシールドを作っていただいたり、酒造メーカーさんには消毒用エタノールを作っていただいたり。このような経験を通して、他施設・他業種の方と連携をすることが、大きな力を産むことを実感しました。そのことを知り合いの薬剤師に伝えたら、薬薬連携でもなにか面白いことができるのではないかという話になりました。

金沢市は「SDGs未来都市」という認定を受けています。さまざまな業種を集めてSDGsに向かって何かできることがないかという取り組みをしています。これをモデルとして、私たちも何かできることを考えようと、団体を設立しました。現在、事務局として地域薬局の薬剤師が７人、病院の薬剤師が６人、行政の薬剤師が１人の計14人が力を合わせて、アイデアを出し合いながら運営をすすめています。

――活動の内容

現在、複数個のプロジェクトチームを結成し進めています。大きく分類すると、残薬０（ゼロ）プロジェクト、手洗いプロジェクト、ミライプロジェクトの３つです。

〈残薬０（ゼロ）プロジェクト〉

患者さんの自宅に量に眠っている残薬。薬剤師であれば、誰もが課題意識を持ったことがあると思います。飲み忘れたことを医師や薬剤師に打ち明けられずに、どんどん溜まっていくことが主な原因です。先日、地域の公民館で残薬相談会を実施しました。その際には、コロナ禍での受診控えや経済的観点から薬代の節約のために、飲み控えをしているケースがあることも知り、現代特有の大きな課題も混在していると認識をしています。

私たちは、従来の課題解決方法とは異なる切り口で、「家に眠っている残薬をお金に換算するとこれぐらいの価値がありますよ」と視覚的に判断できるアプリ開発を考

えています。一義的には「税金だからもったいない」ですが、「残薬を持っていったらその分お薬代が安くなりますよ」という患者さんの深層心理にもリーチするかもしれません。これは私たちの力だけでは達成が難しいため、プログラマーの団体や金沢市などと協働しながら2022年度中に開発を終わらせ、2023年度からの実用化を目指しています。

〈手洗いプロジェクト〉

新型コロナウイルス感染症で2021年の夏頃から問題になったのが、ワクチン接種が進んでいない子どもへの感染でした。幼稚園・保育園や小学校、児童館などで感染者が急増し、そこから家族が感染し重症化することなどが増えてきました。そこで、メンバーと相談をし、手洗い啓発が最も重要であると結論付けました。子どもたちが楽しくて、後で思い出し、家族も巻き込める仕組みを作っていきたいというのがコンセプトです。手洗いには型が６つあるので、音楽に乗せて手洗いの真似をしていくようなリズムゲームをやったり、小さい子どもたちにはオリジナルの絵本を作って読み聞かせをしたりといった活動をしています。これらの活動は、NPO法人日本薬育研究会さんとの共同事業として実施しています。

〈ミライプロジェクト〉

これから自分たちメンバーが何をやりたいか、何ができるかを考え育てていくプロジェクトで、３つあります。

まず「未病プロジェクト」です。石川県は糖尿病の患者さんの割合が非常に多いです。石川県県民文化スポーツ部スポーツ振興課がやっているウォーキングアプリと提携をしてイベントを開催しようと考えています。

次は「やりがいプロジェクト」です。薬剤師の職能を、市民や多職種から正しく評価してもらうため、子どもたちが将来の薬剤師に希望を持ってもらえるための活動を考えています。2023年より、市内のお寺とコラボして、小学生対象に薬剤師の仕事の知識に絡めた「謎解きイベント」を開催する予定です。

最後に「環境プロジェクト」です。薬剤師目線で環境について何か社会的な貢献ができないかという思いから始まったプロジェクトです。薬袋は１つの薬に１袋使うなどすごくもったいないのでどうにかならないか、薬を入れるプラボトルもたくさん消費されているのでリサイクルできないかなどを考えています。自治体などと相談しながら、法規制のなかで薬にかかわるエコシステムを作れるかどうかを今試行錯誤し

ている状況です。

――今後の展望について

SDGsの達成ゴールと言われている2030年に向けて、地域の皆さんの健康や福祉を守っていくのが大きな目標です。この活動を日本全国に広げて、社会の大きなインパクトにしていきたいと考えています。

私たちが「薬薬連携SDGs KANAZAWA」の活動を始めて多職種の人がいろいろな知見を持っていることを知りました。そういった人達とパートナーシップを組むことで、新しくできることが大きく広がったように思えました。薬剤師としての職能を活かして業務を専門的に極めていくこともちろん必要です。更に、もう少し別の職種の方の活動にも目を向けて連携を図っていけば何か薬剤師の世界に還元できる知見も多いのではと思っております。

「青春のリグレット」　綿矢りさ著

やまだのかかし

松任谷由美デビュー50周年を記念してオリジナル短編をいろいろな女性作家が持ち寄った「Yuming Tribute Stories」というタイトルの文庫本の中に綿矢りさ氏の短編が収録されていた。それぞれの女性作家がユーミンの曲から連想して小説を書いている。小説のタイトルはみなユーミンの曲名だ。

「青春のリグレット」　菓子という名前の主人公は結婚して10周年の記念すべき日に夫から離婚を突き付けられる。その時、結婚する前に付き合っていた陸を思い出した。

陸は良い人だけれど色気がなく、顔も雰囲気も悪くないのに何故か陸はもてない人に分類されるタイプであった。菓子は陸に対して尊敬と蔑みの両極端の気持ちを持ち、そんな彼を物足りないと思っていた。菓子は威張っている男の人にはとことんかしずき、甘やかしてくれる男の人からはとことん優しさを吸い取ってミイラにする。それが菓子と男性との付き合い方であった。

そんなある日、陸が菓子に旅行に行こうと誘ってきた。あまり気が乗らない菓子は旅行に行った後に陸といっそのこと別れようと考えた。旅行の間中菓子が楽しんでいないことを陸は見破り、別れるために来たのかと聞く。菓子は陸のことを全てがつまらない、でもいつかは好きになれるかもしれないと努力をしたのだがダメだったと陸に言う。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

「私はあなたといるときちっとも楽しくなくて、時間の無駄で、損してるっていつも思いながら過ごしてきたからその仕返しだよ、私が今までどれだけ退屈したか知ってる？」

「青春のリグレット」　綿矢りさ著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

すると陸は菓子にはじめて怒りを噴出させ菓子の首を絞めるふりをした。手を緩めた陸は「好きだからだよ」と言った。

旅行に行ってから一か月後カフェで再会した二人は別れることにした。その後しばらくして菓子は別の男性と結婚をした。そ

れから10年たったとき、夫から別れ話を持ち出された。その時菓子は陸を思い出した。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

陸．私はあなたを侮っていた。

そして自分を知らなかった。

（略）

十年のうちに分別をつけた私は今さらあなたに会いに行くなんでできない。過去というもう過ぎ去ったどうにも無抵抗な思い出に対して現在の私がわざわざ振り向いて扉をたたきに行くのは、悲しみの有り余っている私の愚行であり愚弄だと知っている

から。

いまさらいい人ぶって、泣いたりできない。後悔してる、謝りたいなんて、勝手すぎて伝えられない。あのとき真剣に考えてくれた将来の計画が、今さら恋しいなんて。

陸はこんな風に私を思い出しはしないだろうという確信が、余計に孤独を深める。裏切ったのに、何年も心の中に居座ろうとするなんて、無理な話だ。あれが私なりの愛し方だったと言ったところで、あなたどころか私自身も信じられない。その証拠に私をもてあそんだ人たちの面影は、私の心には全然浮かび上がってこない。夫は私を愛さなかったから、結婚まではしたけど私の中の夫の記憶はどんどん薄れていくだろう。誰かに抱いた憎しみは日が経つと共に薄れ傷も残せず、もらった愛情だけが、快晴の日にベランダに干した白いシーツに映った葉擦れ影のように、私の心を離さない。

「青春のリグレット」　綿矢りさ著

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

青春とは後悔するから意味があるのだ。

きっと。

いつまでも現役の薬剤師

株式会社日環商事　中　出　　勉

私は、25歳で父親から薬局を引き継ぎ、71歳まで薬局を営んでいた。その後、薬剤師会に２年間、加賀市山代温泉のすぎはら薬局に５年程、金沢と福井県丸岡のクスリのアオキに６年程勤め、現在は、金沢市にある水処理関連の薬品を取扱っている日環商事で管理薬剤師をしている。昭和５年生まれで11月に92歳となった。自宅の鶴来から電車とバスを乗り継いで通っている。

コロナ禍になり旅館やホテルが「県民旅行割」で安く宿泊できることを知り、今年の８月に近江町の近くにある「御宿野乃」を利用した。「御宿野乃」には天然温泉の

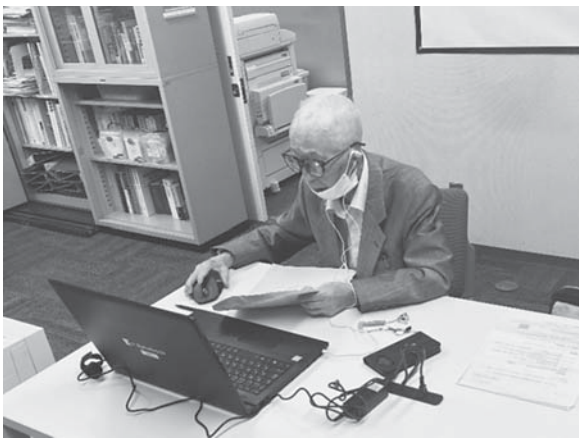
大浴場が屋上にあり、ホテルなのに畳敷きでびっくりした。この日は近江町の海鮮丼の店で一杯やり広々とした大浴場でゆっくりと温泉につかることができたので心身ともに癒される安らぎのひと時を楽しむことができた。

翌日、仕事帰りに薬剤師会によって谷内さんと藤原さんにこの話をしたら、「一人で泊ったのか？」と何回も聞かれ、「先生元気やわ。」と一言。大変羨ましがられた。そして、谷内さんが「薬剤師会のすぐ近くにダイワロイネットホテルが新しくできバスとトイレが別々でゆっくりできるよ。」と教えてくれた。

金沢駅西口のアパホテルにも大浴場があるので９月に利用した。夕食は金沢百番街の「黒百合」でおでんで一杯やりながら、ふと、昔のことを思い出した。今でこそ「金沢おでん」とよく言われているが、私が金沢おでんを食べ始めたのはずっと早く、昭和40年ごろで、鶴来で「なかで薬局」を営んでおり公私ともに脂の乗り切った充実した日々を送っていたころである。片町の中ほどにある今でも人気の店である「赤玉」に、当時、材木町で渡辺薬局を営んでいた大学の先輩の渡辺為三郎さんによく連れて行ってもらった。店に入ると最初に注文するのは湯豆腐と熱燗と決まっていた。大根やバイ貝、ふかし、車麩など粉雪の舞い散る頃は特に旨い。幸せだなと思う瞬間であった。渡辺さんはアルコールが回ってくると仕事に関すること、健康に関すること、特に長寿を迎えられる秘訣について熱く語り始めるのであった。「食事はバランス良く。」、「深酒はダメ。少々のアルコールが良い。」、「よく歩く。軽い運動をすること。」等々。今日まで健康で薬剤師を続けてこれたのも、渡辺さんとの金沢おでんでの出会いがあったからだと思うとなぜか懐かしくなった。

10月に、谷内さんが教えてくれたダイワロイネットホテルに泊まり、夕食は金沢百番街の「魚菜屋」で海鮮丼で一杯やった。最近海鮮丼を出す店をよく見るようになったが海鮮丼も美味しいし酒に合う。ホテルのバスとトイレが別々なのはそれなりにゆっくりできたが、年寄りにはやはり大浴場の温泉の方が心身ともに癒される。

翌日、薬剤師会に寄り、谷内さんと藤原さんに話したところ、また羨ましがられた。そして、つい先日、案内のあった「第２回CAPEP・WEBセミナー」の受講の方法について聞いたところ、藤原さんがパソコンを用意してくれたので、何とかｅ－ラーニングを受講することができた。昔は、会場での座学の研修会や講習会ばかりであったが、最近はコロナ禍の関係でWeb研修やｅ－ラーニングとなり私のような高齢の



年寄りには研修や講義の受けづらい世の中になった。しかし、時間をかけて会場まで行かずに自宅や職場で受講することができるのでパソコンを使える人たちには便利になったと思う。薬剤師は日々研鑽を積んでいく職種と思うので、皆さんは最新の情報や知識を習得して地域住民から頼りにされる薬剤師となるよう健康に気を付けて頑張ってください。

「学びのサポーターとつくる夏休み体験」への参加を通して

てまり新田薬局　赤　坂　聡　之

2022年５月の初め、野々市公民館よりイベントへの参加依頼の電話がありました。

詳しくお話を聞くと「学びのサポーターとつくる夏休み体験」というタイトルで毎年７～８月に、ののいちカミーノの教室を利用して職業体験を催しており、今回薬局薬剤師に白羽の矢が立ったそう。子どもたちに我々の職能について学んでもらえる、またとない機会だと二つ返事で快諾しました。しかし、実現への道は険しいものでした。

まずは参加人数。これまで店舗で実施してきたこどもお薬教室は多くて10人弱でしたが、例年80人ほどが参加希望されるとのこと。そんな大人数でのお薬教室は前例がなく、限られた時間の中でどのようにして参加者の皆さんを満足されられるかが課題でした。当日は各部30人弱ずつの３部構成とし、それぞれ15人前後のスタッフを配置することになりました。新型コロナウイルスの感染状況も加味し、スタッフのフェイスシールドと手袋着用、手指及び施設の消毒、換気を徹底して行うこととしました。

次に体験する内容について。話し合いの結果、まずプロジェクターを使用した紙芝居形式で薬剤師の仕事や薬の飲み方についてお話しし、その後参加者全員が同じ「こどもお薬教室専用処方箋」を用いて調剤体験をすることに決まりました。スポーツドリンクの粉末を使った散剤の分包、マーブルチョコやグミを使っての分包、カルピスの原液の希釈、PTPで包装されたチョコレートの計数調剤、パンに塗るクリームを使った軟膏詰め、と盛りだくさんの内容と

なりましたが、この量を１時間30分目標で終わらせる必要がありました。分刻みでのスケジュールを組み、各スタッフがどの作業を担当するかを割り振りました。

最後に物品について。店舗での開催であれば容易にできる調剤体験も、公民館でするとなるとそうはいきません。湯山製作所様にお願いして、錠散の分包機と調剤台を一台ずつレンタルできることとなりました。電子天秤などはグループ店舗内で余っているものを集めて使用しました。こども用の白衣が不足していたため、らいふ薬局様にもご協力いただき、間に合わせることができました。その節は誠にありがとうございました。

そして迎えた本番当日。あいにくの大雨でしたが、80名の方にご参加いただき大盛況でした。時間は多少オーバーしてしまいましたが、次の部の開始は遅延することなくスムーズに進みました。参加者の皆さんの楽しそうな笑顔、教室の外からしきりに写真のシャッターを切る保護者の方々を見て、胸がいっぱいになりました。終了後のアンケートでは、９割以上の方が「楽しかった」「また参加したい」「薬剤師に興味を持った」と回答してくださいました。これは、スタッフ全員の対応の良さもアンケートに反映されていることと思います。

今回のイベント参加を通して私が学んだのは「どんな困難なことでも、皆で取り組めば実現できる」ということです。今抱えている問題や掲げている目標も、一人ひとりが手を取り合えばきっとうまくいく、そう思います。これからも地域の皆様によりよい未来が届けられるよう、従業員一丸となって業務に励んで参ります。

第43回金沢がん哲学外来オンライン講演会の紹介

金沢大学附属病院　緩和ケアセンター長　山　田　圭　輔

はじめに

令和４年６月19日に石川県薬剤師会の後援を頂き、「生と死を考える」をメインテーマにした第43回金沢がん哲学外来オンライン講演会を開催しました（図１）。筆者が「苦境の中を生きる」、川井康嗣先生（仙台ペインクリニック石巻分院）が「突然の死・予期せぬ死：仏教とストア派哲学から学ぶ受け入れ方」、河田竜一先生（山口県済生会下関総合病院麻酔科・緩和ケア内科）が「わたしの死生観：しあわせに生きる」のタイトルで講演しました。本

図１：第43回金沢がん哲学外来
オンライン講演会記録集の表紙

稿では筆者の講演内で引用した金沢大学医学生５名のレポートを、金大病院薬剤師（図２）と共に紹介します。

Ⅰ．金沢大学医学生のレポート

１）人生の短さについて

（セネカ、岩波文庫）

自分が末期のがんを宣告され、余命残りわずかと知ったら、残りの人生をどう過ごしたいか。これが実習の始めに山田先生から受けた問いかけであった。人間はいつか死ぬと分かっていても、普段の生活の中では全く意識しない。それどころか、どう生きるかということもそれほど真剣に考えていない。大学生になって５年が過ぎようとしている。５年後はかなり先のことに思えるが、５年前はつい最近のことだ。

数年前に買った「人生の短さについて」をもう一度読んでみた。「我々は我々自身が生を短くしている」「生きることにとっての最大の障害は、明日という日に依存し、今日という時を無にする期待である。」セネカは、有効に活用すれば人生は十分に長いと説いている。

図２：金大病院薬剤師と緩和ケアチームスタッフ
後列：坪内、筆者、原
前列：折戸（若葉らいふ薬局）、岡本、塩本、高林

余命が短いと知ったなら、今日を精いっぱい生きるしかない。与えられた時間が決まっているなら、その時間で自分のしたいことをしなければいけない。このことは、余命が短い人だけでなく、全ての人にとって同じなのだ。どう死を迎えるかと、どう生きるかとが同義であるのは、ローマ時代から変わらない真実なのである。

２）徒然草（吉田兼好）

徒然草の第93段「人、死を憎まば、生を愛すべし。存命の喜び、日々に楽しまざらんや。」と、第155段「死期は序を待たず。人皆死ある事を知りて、待つことしかも急ならざるに、覚えずして来る。」を紹介した。武士の世である鎌倉時代を生き、無常を体感した吉田兼好は、徒然草の中で先述の如く「生と死」を表現した。生とは、死と常に隣り合わせの事象であり、何の前触れもなく訪れる。しかし多くの人は死を他人事として捉え、今ある命を懸命に生きているようには感じられない。もし命に限りがあること、その終期を知ったなら

ば、更に今を生きる喜びを感じられるのだろう。

迫りくる死と対峙する患者に対して、医療者ができることは何か。それは、「生きていることへの喜びや尊さを感じてもらうこと」「死について共に考えること」である。患者に寄り添い、患者の目線で物事を捉え、今ある生を輝かせることが大切であると感じた。また、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を通じて、死や命の終わりについて話し合うことも重要である。医療者は、死と密接にかかわる存在であるからこそ、患者それぞれの生を輝かせることのできる存在であると思う。

3）大切なこと（松下幸之助、PHP研究所）

私の祖母は、昨年１月に脳出血をきたした。私は、人のために生きるという信念のもと医学部に入学したが、祖母が倒れたという連絡を受け、身近な大切な人の力になれない自分の無力さや不甲斐なさを感じた。今年１月に10分だけ祖母と面会する機会が設けられ、祖母は「先生から聞くより、亮太の言葉の方が信じられる。」と声をかけてくれた。こんな自分でも少なからず祖母の助けになっていると思えた。

ふと、幼い頃に祖母からもらった松下幸之助の「大切なこと」の一節「自分のものがあると思っていても、それは仮にそう定められているだけのことであって、ほんとうは何もないのである。授かったものである。」を思い出した。祖母は突然に普通の生活を奪われた。しかし、祖母の意思によって普通の生活がそこにあったわけではない。普通の生活は、授かったものであって、大切にするべきものだったのだ。私自身も、自分の力のなさを嘆くより、自分という存在をもっと大切にすることの方が、人を幸せにすることができるのだと気がついた。人の存在を、大切に慎重にそして有意義に、生きることを支えていくことが医療者の支援のスタンスなのだと考えた。

4）ハイリゲンシュタットの遺書

ルートヴィヒ・ベートーヴェン（1770－1827）は幼い頃から音楽の才能を示し、当初はピアニストとして高く評価された音楽家であった。しかし20代後半から、音楽家の命ともいえる耳が聴こえなくなってしまう。そのような辛い状況の中で書かれたのがハイリゲンシュタットの遺書である。その中には「自分の生命を絶つまでほんの少しの所であった。私を引き留めたのはただ芸術だけであった。」と記されている。これはピアニストの道を捨て、作曲専業の道へと進み、新しい自分として再出発する決意書だったのである。

彼には５歳年上の幼馴染の医師フランツ・ヴェーゲラーがおり、彼が最初に耳の異常をうちあけ、その後も頼りにしたのはヴェーゲラーだったとされている。ヴェーゲラーにとって友人の病気を治すことができなかったのはさぞ無念だっただろうが、ヴェーゲラーの存在があったからこそ、彼は自殺を思いとどまり、新たな道に進む決意ができたのである。

ヴェーゲラーのように話を聴き、患者が悩んだり決意するところを見守り支援することも、医療者の重要な仕事だと考えた。ヴェーゲラーの支援と、自身の音楽への強い情熱をもってベートーヴェンは苦境を乗り越え、彼が遺した作品は今なお多くの人々に聴き継がれているのである。

5）What is a good death?

Goldsteenらの論文（What is a good death?）から、良い死を迎えるためには、

1）認識と受容、2）感情に適切に対処すること、3）最後まで自分の人生を生きること、4）オープンな会話（コミュニケーション）が有用であることを紹介した。次いで、車いすバスケットボールを描いた漫画リアル（井上雄彦、集英社）を取り上げ、苦境の中にあってもよく生きることは、上記の良い死を迎えることと類似していることを伝えた。

人が苦境の中を生きるために最も大切なことは、支えてくれる人がいるという強固な人間関係を保つことです。右下肢を切断した直後の主人公のように、失望感から人間関係を捨ててしまうことは弊害になるだけで、病態や予後について正しい理解を持ち、感情に翻弄されず、その上で何ができて何ができないのかを考え、今の自分を受け入れてくれる他者との人間関係を保ち続けることが大切です。

それらが達成された後も繰り返して、何が残っていて、何ができて何をしたいのかを考え、オープンに話しあうことが必要です。生きるということは、自分の中で目標や目的を持ち、今すべきことやしたいことを続けていくことだと思う。自分の状態を受け入れられず、感情に圧倒され、他者とうまく接することができずに孤立している患者さんは多くいる。これから医療者として働いていく上で、患者さんを孤立させず、その人の想いに耳を傾けていく姿勢が必要だと考えた。

おわりに

人が生きることと死ぬことは普遍的なことですが、各人が生きることと死ぬことは極めて個人的なものです。薬剤師を含めて医療者は、職業人として「生と死」に深く関わっていますが、日常の業務や生活の忙しさの中で、これらについてあまり考えることもなく過ごしてしまいます。医療者が、生と死に関する様々な考えや実践があることを学び、他者の考えを聴き、自身の考えを述べられることで、緩和医療に関わるうえで重要な心理・スピリチュアル面の支援に取り組む心構えができると考えています。

金大病院緩和ケアセンターでは、主に医療者を対象として、生と死を考えるヒントを提供するオンライン講演会を続けています。第45回金沢がん哲学外来オンライン講演会（図３）も石川県薬剤師会の後援を頂き、令和５年２月19日に開催予定です。以下のQRコードから申込み可能です。どうぞよろしくお願い致します。

図３：第45回金沢がん哲学外来オンライン講演会ポスターとＱＲコード

石川県薬剤師会「親睦ボウリング大会」を開催して

石川県薬剤師会　副会長　綿　谷　敏　彦

誰もが気軽に楽しめるスポーツとして広く親しまれるボウリング。1970年代にボウリングブームが起きるもその後下火となってしまいましたが、近年になってボウリングがクローズアップされてきているようです。心拍数を保てる有酸素運動であることや、新陳代謝を活発にして血行を促進することで高血圧などの予防に役立つといった健康面で高い効果が得られるスポーツとして再び注目され始めています。さほど運動量の多いスポーツではないので、年齢を重ねた方や健康維持を考えて適度な運動をしたいと考える方にはピッタリのスポーツと言えるでしょう。

この身体に優しい（笑）ボウリングを通じてお互いの親睦を深めることを目的として、11月27日(日)、金沢市諸江町の「マンボウ金沢」で、石川県薬剤師会「親睦ボウリング大会」を開催いたしました。参加者は21名と少数でしたが、中森会長による始球式の後、８レーンで一斉に競技がスタートし、ストライクやスペアが出るたびにグータッチをしたり、マスク越しに「ナイス！」といった声を掛け合ったりして親睦を深めていきました。

個人戦優勝は、西田和広さん、第２位は、下野二三代さん、第３位は、吉田明子さんでした。団体戦は、河北支部が優勝しました。おめでとうございました。

個人戦優勝の西田和広さんの（河北支部）のコメントです。

『河北支部のキリン堂薬局金沢医科大店の西田和広です。第１回石川県薬剤師会親睦ボウリング大会で優勝することができ大変光栄に思います。今回大会は当初からひそかに優勝を目指して参加していたので、スコアは満足のいくものではなかったのですが非常にうれしい限りです。ボウリングは天候に左右されず、また歳を重ねても楽しめるスポーツなので今後もより多くの参加者が集まるような大会が行えたらと思っています。尚、第２回の大会が開催される時は連覇を目指して、これからも健康を維持しつつボウリングをして行きたいと思っています。

大会開催にあたり運営頂いた先生方やス

中森会長　始球式

大会の様子

タッフの皆様本当にありがとうございました。』

大会開催にあたり、賞品準備をしていただいた事務局の皆さま、受付をしていただいた青年部会の皆さま、そして当日ご参加いただきました皆さま、誠にありがとうございました。

来年度も開催する予定でおりますので、皆さま方のご参加をお待ちしております。

結果発表

優勝　西田先生

「愛はゴミ箱の中に」“Who Is Banksy?”

石川県薬剤師会　会長　中　森　慶　滋

バンクシーを知ったのはいつのことだったであろうか。センセーショナルなメッセージを発する異端児。これが始めて彼を知ったときの記憶のような気がする。ロンドンにあるサザビーズのオークションでバンクシーの風船と少女が落札されたその瞬間に絵が半分裁断されてしまうという報道を見た時、僕はそこから強いメッセージを感じたものである。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

バンクシーはなぜ作品を断裁したのか

老舗のオークション会社「サザビーズ」がロンドンで開催したオークションにバンクシーの版画作品《ガール・ウィズ・バルーン》（風船と少女）が出品された。落札金額は、104万2,000ポンド（およそ１億5,000万円）。バンクシーにとって、２番目に高い落札金額だった（当時）。

しかし、落札が決まった瞬間、会場にアラームが鳴り響くと、額縁にあらかじめ仕掛けられていたシュレッダーが作動し、作品を断裁し始めた。騒然とする会場を尻目に、断裁された作品は、関係者の手によって会場から運び出されていった。

otokonokakurega.com/learn/secret-base/26634/

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

この途中まで裁断された作品はその後タイトルを「Love is in the Bin（愛はごみ箱の中に）」として再びオークションにかけたところ、バンクシー作品の最高額の28億円で落札された。2021年10月14日のことである。このLove is in the Binは21世紀を象徴する美術作品として歴史に

残るのだろう。アンディウォーホールの「マリリンモンロー」がそうであるように。

「“Who Is Banksy?”バンクシーって誰？展」が隣の富山県の高岡市にある高岡市美術館で開催されているというので先日の日曜日行ってきた。

バンクシーはストリートアーティストで廃墟の壁に切り抜いた型紙にペンキを吹きかけて描くステンシル技法で描くスタイルを特徴としている。キャンバスに描いているのでないため展示会場にはインスタレーションが展示してあった。イギリスの街並みをテレビ局の美術チームがリアルに映画のセットのように制作し、そこに彼の作品が再現されていた。

金沢21世紀美術館では現在「イブ・クライン展」を開催している。膨大な観客を想定しているのかこの展示を見るためには時間枠で指定された時間に入場するように設定されている。しかし高岡ではこのようなことはないだろうと、軽い気持ちで行ったのだがその予想は見事に裏切られた。観客は入場口のホールの床にレーンを示すラインに沿って並ばされ、時間を区切りおよそ３分から５分ごとにレーンの観客をクラスターとして入場させていた。約40分ぐらいかかって中に入ることができた。

パンフレットのご挨拶の冒頭には次のように書かれている。

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

“壁に絵を描く”という行為に、人類は先史以来、魅了されてきました。学校の教科書で誰もが目にする洞窟壁画はアートの始まりと言われており、我々の祖先の高い表現力を示す芸術です。古い絵の上に新しい絵を重ね、思うがままに表現したその痕跡は、数万年前のものと思えないほど自由そのものです。

そのような絵をハッと思い出させてくれるのが、現代のストリートで表現を続けるアート界の異端児“バンクシー”です。（略）

ごあいさつ「Who is Banksy?」

バンクシー展　高岡美術館

＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊-＊

この展覧会は世界の各都市を循環し人気を博した「ジ・アート・オブ・バンクシー展」から傑作作品を日本のオリジナルなテイストを加えるとともにストリートに焦点をあて体感できるように構成している。またパンフレットにはキース・ヘリングやジャン＝ミッシェル・バスキアの次の世代としてバンクシーを位置づけていると書かれていた。

展覧会場に入る。パンフレットに書かれていたようにロンドンの雰囲気を湛えた映画のセットの中にバンクシーの作品がステンシルで描かれていた。ネズミがうろうろしている様子が映像で壁に映し出されている。

彼が壁に描いた「スティーブ・ジョブズ」がいる。彼のコメントが書かれていた「難民は国のお荷物だっていうけれど、ジョブズはシリア難民の息子だぜ。その昔、彼の父親をアメリカが受け入れたから、年間70億ドルもの税金を払う、世界に冠たるアップル社ができたんだ。」

レ・ミゼラブルに登場するコゼットが泣いている。催涙ガスでやられたようだ。「催涙ガスは使っていない」と言い張る仏警察に突き付けた動かぬ証拠だ。とパンフレットには書かれている。

イスラエルの街の壁に描かれたフェルメールの「真珠の耳飾りの少女」が再現されていた。

僕は20代のころ数か月間一人旅でバック・パッカーの旅をしていて、その時イスラエルを訪れたことがある。エジプトから戦車の残骸が残るシナイ半島をバスで超えて国境の町ガザから入国した。その時ユダヤ人から徹底したセキュリティーチェックを受けた。その後テルアビブからエルサレムに入りキリストが目にした2000年前と同じ光景が広がる旧市内の街の中を歩いた。聖墳墓協会ではキリストが磔刑された十字架が建てられたという丸い穴に手を触れ、そこにいた人がしているように僕もお祈りをした。マリア様の墓前では仏教徒のように手をあわせた。それを見ていたドラゴン・クエストに出てくるような大きな白いひげを生やした僧侶は「このロザリオをもっていきなさい。これはあなたのものだ。」と言い僕の手のなかにそれを収めてくれた。

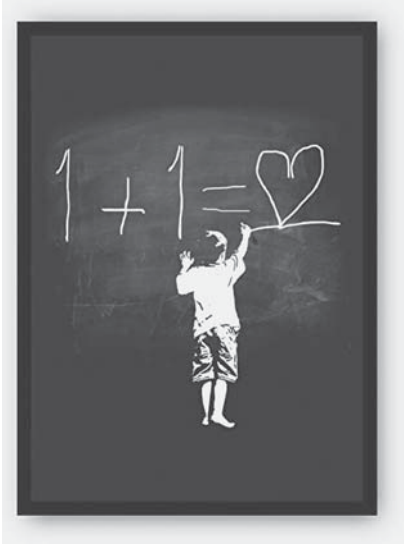
キリストが十字架を背負い歩いた悲しみの道
写真はWebより

聖墳墓協会の内部　写真はWebより

第二次世界大戦後、聖書にこの土地はユダヤのものと記述があるというだけの根拠で経済と政治を力にして世界中に散らばっているユダヤ人はイスラエルに入植してきた。長年のどかに暮らしていた多くのパレスチナ人は土地を奪われ隅に追いやられた。キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の聖地エルサレムはイスラエルの首都であるとユダヤ人は宣言した。パレスチナ人はインティファーダ（一斉蜂起抵抗運動）と呼ばれるテロで対抗するすべしかなかった。するとユダヤ人は長い壁を作り彼らを物理的に隔離してしまった。

バンクシーはイスラエル政府を皮肉ったいくつかの作品を制作している。「真珠の耳飾りの少女」の耳飾りの部分を建物に設置された黄色い警報器を重ね合わせている。コロナが蔓延しだしたころ少女の口元にマスクが描き加えられた。マスクを描いたのはバンクシーなのかは不明であると書かれていた。

自宅近所のイタリヤ料理店に行き、店内の壁を眺めるとバンクシーの作品「１＋１＝♡」がかけられていた。僕の部屋にも誕生日に息子たちから送られた「Girl With Balloon」をかけている。裁断された作品「赤い風船と少女」の裁断前の絵だ。書斎でその絵を眺めると世の中を風刺し人々の心に訴えかける彼の作品に世界を変えるメッセージを感じる。



二年後の2024年に北陸信越薬剤師会学術大会が開催される。「人として、薬剤師として。」をテーマにして開催した日本薬剤師会学術大会から今年で４年経った。さらに２年後、我々執行部は日本の薬剤師の意識を変える学術大会を企画している。テーマはすでに決定した。北陸信越のエリアにとどまらず全国にZoomで発信するとともに世界とZoomで接続するのだ。

何かを変えるためには強烈な個性が必要だ、バンクシーがそうであるように。

「今は笑え、しかしいつか俺たちはしかけるぜ」
Banksy展より

連盟だより

～学術大会からの「伝える」～

参議院議員・薬剤師　本　田　顕　子

各地で学術大会が開催される季節になりました。久方ぶりに対面でお会いできる喜びが各地で広がっていることを感じます。

九州山口薬学大会にて「ジェンダー平等、共に認めあう社会へ」をテーマに講演のご依頼を受けました。女性活躍を進めるには、日常の「当たり前」を見直すことが大切であることを伝えさせていただく良い機会となりました。先進国で最低レベルのジェンダーギャップ指数（*）をどうすれば１に近づけていけるか？固定的性別役割分担意識を変えていくことやアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）に気づくこと、家庭等での男性の協力が必要であることについて、参加の先生方と思いを共有させていただきました。

女性活躍には男性の育児、家事への参加がとても大切で、男性の育児や家事の時間が長くなるほど、女性の継続就業率や第２子以降の出生割合が増えるというデータもでています。「産後パパ育休」が10月から始まりました。私は令和３年４月８日の参議院厚生労働委員会で育児・介護休業法改正法案の質疑に立たせていただきました。男女が認め合いながら活躍できる社会に繋がることを願っております。

私自身、伝える大切さを感じる毎日です。ご依頼いただければ、今後も対面、Web等工夫しながら「伝える」を続けてまいります。

（*）ジェンダーギャップ指数
(Gender Gap Index：GGI)
各国における男女格差を測る指数のことで、世界経済フォーラム（WEF）が「経済」「教育」「健康」「政治」の４つの分野のデータから作成。０が完全不平等、１が完全平等を示す。
https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202208/202208_07.html

［お問い合わせ先］
〒100-8962　東京都千代田区永田町２-１-１
参議院議員会館1001号室
参議院議員本田顕子事務所
＜TEL＞ 03-6550-1001
＜FAX＞ 03-6551-1001
＜E-mail＞ akiko_honda02@sangiin.go.jp

第204回国会　参議院厚生労働委員会
（令和３年４月８日）での質疑

令和４年９月19日　第81回九州山口薬学大会
女性薬剤師分科会での講演

初めての国会質問

参議院議員・薬剤師　神　谷　政　幸

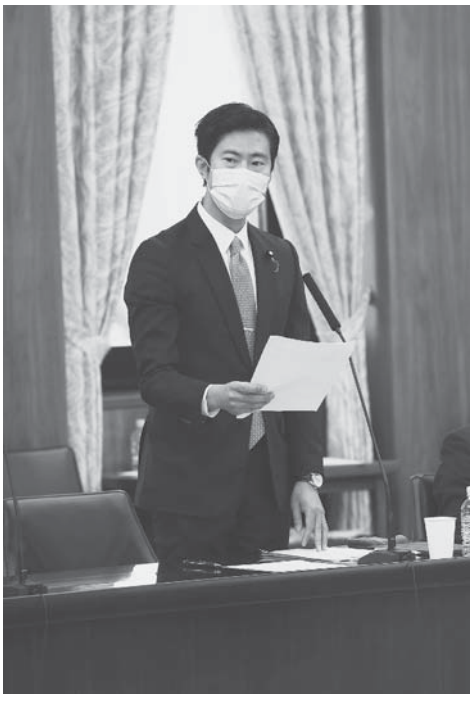
10月３日に召集された臨時国会において、厚生労働委員会に所属することができました。厚生労働委員会は10月27日から実質的な審議が始まり、早くも二番手で質問に立つことになりました。この日は、前々日に行われた厚生労働大臣の所信表明演説に対する質疑でした。

まず、加藤大臣に対し、感染拡大防止と経済活動の両立を図る方針の下における今後の新型コロナウイルス感染対策について考えをお聞きしました。

続いて、次の事項について担当局長に質問して答弁をいただきました。

○革新的医薬品の開発促進に向けた環境整備の具体的内容について

○医薬品、特に後発医薬品の安定供給を確保するための対策について



○第８次医療計画の策定に向けた医薬品提供と薬剤師確保に関する検討状況について

○マイナンバーカードと保険証の一体化に向けての検討状況について

○新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行を想定した医薬品提供体制及び自己検査のできる検査体制の強化に向けての取り組み状況について

最後に、予防・重症化予防・健康づくりについて質問を予定していましたが、一番手の議員が同様の質問をされましたので、私からは健康サポート薬局について言及しつつ、薬局や薬剤師も地域住民の健康増進に取り組んでいることを紹介させていただきました。

当日の審議の状況は、参議院のＨＰ→「参議院審議中継」をクリック→カレンダーで開会日（10月27日）を選択→厚生労働委員会をクリック→委員会の動画によりご覧いただくことができます。動画下の発言者一覧より神谷政幸をクリックしてください。

初めての国会質問で緊張しましたが、何とか責務を果たすことができました。

10月27日　参議院厚生労働委員会

薬剤師の明るい未来のため 挑戦を皆様と共に

石川県薬剤師連盟　副幹事長　宇　夛　裕　基

平素は「石川県薬剤師連盟」並びに「うだひろき」の政治活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。薬局や病院へのご訪問の際には、多くのご声援、お力を頂いておりますことを、合わせて御礼申し上げます。

さて、来年の統一地方選挙が少しずつ迫ってまいりました。金沢市議会議員選挙も４月16日公示、４月23日投票で執り行われる予定です。私が皆様と共に目指していきたい社会は、「今日の健康的な暮らしを、明日も明後日も続けていける社会」です。一人一人が最後まで自分らしく、イキイキと住んでいける地域を作っていきたいと考えています。

そのために、医療介護福祉の切り口で考えれば、地域包括ケアシステムの充実が重要です。これまでの家族単位、病院単位、施設単位に加えて、地域という「面」単位で、市民一人一人の不安に寄り添い、支えていくシステムですから、金沢市内に200か所以上ある薬局や、基幹病院が鍵となり、薬剤師の力が重要であるのは言うまでもありません。

私が実際に医療、介護、福祉の現場で活動していて、印象的なエピソードがあります。ある施設で、薬の用法が多すぎて、服薬を嫌がっている利用者さんがいました。そこで医師に対して、食前の薬を食後にずらし、昼食後の薬を削除する提案をしたところ、用法が大変少なくなり、患者さんも納得して服薬を再開してくれました。「薬剤師さんって、ここまでしてくれるんや。知らなかった、ありがとう。」という、患者様や介護職の方からの言葉がとても心に残っています。

半面感じたのは、薬剤師の職能への理解不足です。「薬剤師として当然の仕事をしただけ」と思っていたからです。多職種や一般の市民からは、薬剤師は調剤をしている人という印象が根強いと実感をしています。調剤はもちろん重要ですが、地域包括ケアシステム、在宅医療、セルフメディケーションなど、私たち薬剤師が職能を発揮できるステージはこれから沢山あります。

人々に薬剤師の職能を知ってもらいながら、その職能をますます発揮すること、それを県や市町に伝えていくことによって、国に薬剤師の重要性が伝わり、法や予算が整備されていきます。それが、薬剤師の働きがいや明るい未来を創出し、薬剤師を目指す子供たちへの夢や希望につながっていくはずです。

現在、皆様のご尽力により、参議院議員として本田あきこ先生と神谷まさゆき先生の２名体制が誕生しました。法や予算整備のための土台は整っています。あとは、いかに薬剤師の職能を国に伝えていくか。アクションを起こすのは常に、現場から、地域からです。そのアクションを支え、多職種や市民に広め、市町、県、国に伝えていく力も必要です。私「うだひろき」に、是非その役割を務めさせてください。そのた

めにも、皆様方からのご指導、アイデア、ご意見をお聞かせいただければ幸いでございます。

今後も薬剤師として、地域医療に携わる者として、今日の健康的な暮らしを、明日も明後日も続けていける地域づくりを目指して参ります。薬剤師の明るい未来のために、皆様と共に挑戦させてください。今後も組織内候補「うだひろき」を応援頂きますようよろしくお願い申し上げます。

「討議資料」

「うだひろき」
ホームページ
uda-hiroki.com

ホームページの二次元バーコード

令和４年度日本薬剤師連盟北陸信越ブロック協議会の開催

石川県薬剤師連盟　事務局長　谷　内　一　大

令和４年11月20日(日)、令和４年度日本薬剤師連盟北陸信越ブロック協議会が、長野市のＪＡ長野県ビルにおいて、会場とWEBとのハイブリッドにより開催されました。

山本信夫日本薬剤師連盟会長、本田顕子参議院議員からはWEBでのご挨拶を、神谷政幸参議院議員からはメッセージをいただき、日本薬剤師連盟の川田哲幹事長、荻野構一副会長には、会場にお越しいただきました。

富山県、新潟県、長野県、福井県、石川県から34名（会場25名）が参加され、日本薬剤師連盟の活動や直近の政治課題についての報告、また第26回参議院議員通常選挙の結果を踏まえ、協議・情報交換が行われました。

コロナ禍の中、WEB会議ばかりでしたが、久しぶりの会場でリアルに顔を合わせての会議でしたので、大変活発な意見交換や情報交換ができ、リアル会議のありがたさを痛感しました。

最後に、橋本昌子石川県薬剤師連盟副会長兼幹事長の閉会の辞で終了しました。

原稿を募集しています。

◇「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものにしたいと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。

◇テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或いはマンガ、イラスト、カット、写真等々何んでも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。

◇原稿はデータで石川県薬剤師会までメールでお送りください。

その他：採否は編集委員会におまかせください。

「県薬レポート」編集委員会

委員：中森　慶滋、三浦　智子、西上　　潤
　　橋本　昌子、山﨑　敏誉、吉藤　茂行
　　藤原　秀範

石川県薬剤師会ホームページのＵＲＬ
http://www.ishikawakenyaku.com/

ｅメール・アドレス
kenyaku@plaza-woo. jp